

V. 教員の研究教育・社会貢献活動

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

【超領域文化論講座】

ガデミ アミン (GHADIMI, Amin) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 超領域文化論 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences) 総合英語 (Academic Skills)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 グローバル思想史・文化史・近代日本史

[研究業績]

〈論文〉

- Ghadimi, Amin. The Globality of Suffering: Tokutomi Kenjiro Meets 'Abdu'l-Bahá in Palestine, 1919. *Cultural Formation Studies IV* (May 2024), 15-36.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- “From Kumamoto to Jerusalem and Haifa: The Global Suffering of Tokutomi Kenjiro, 1868-1919, The 13th International Convention of Asia Scholars, Surabaya, Indonesia 2024 年 7 月
- “Slave Rebellions without Slavery in Early Meiji Japan, 5th Annual International Conference, African Association for Japanese Studies, Ibadan, Nigeria (online) 2024 年 10 月
- “Leroy Lansing Janes, the American Civil War, and the Enlightenment of Kumamoto, Japan,” International Symposium, Society for Global Nineteenth Century Studies, Gulf University for Science and Technology, Kuwait 2025 年 1 月

〈研究助成〉

- (継続) 「熊本敬神党の比較思想史」 (30844815) 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究
- 〈調査活動〉
- Friends of Princeton University Library Grant の助成金でプリンストン大学附属図書館にて資料調査 (2024 年 8 月)

〈受賞〉

- 大阪大学賞 若手教員部門, 大阪大学 (2024 年)

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

- 大阪大学グローバル日本学教育研究拠点 “January 2025 Workshop: The New Cambridge History of Japan: Vol.2, Early Modern Japan in Asia and the World, c. 1580-1877,” with Profs. David Howell, John Porter, Sean O'Reilly, Maho Ikeda, Keishun Suzuki, Taro Tsuda, and John D'Amico

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院図書委員会委員長

北井 聡子 (KITAI Satoko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ジェンダー論 A・B、

〈共通教育担当科目〉 ロシア語 I・II、国際コミュニケーション演習 (ロシア語)、ロシア語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ジェンダー/フェミニズム表象, ロシア文学、ロシア文化・思想、メロドラマ

〈所属学会〉 日本ロシア文学会、ASEEES

〔研究業績〕

〈書評・論評・紹介〉

- ・ (書評) 安野直『ロシア文学とセクシュアリティ―二十世紀初頭の女性向け大衆小説を読む―』、『ロシア語ロシア文学研究』第56号、139-149頁、2024年10月。

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 北井聡子 「眼差しと主体/他者の生成―アレクセイ・トルストイの中編小説『くさりへび』(1928)を中心に―」「プラトンとロシア」春期研究会、2025年3月31日、早稲田大学。

〈研究助成〉

- ・ 「近現代ロシア思想における《異他性》の思考：思想史的遠近法の再構築をめざして」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (A)、研究代表者：貝澤哉、課題番号：22H00004、研究分担者
- ・ 「1920年代～30年代ソ連文化におけるジェンダー表象」日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究、課題番号：20K12827、研究代表者
- ・ 「ロシア的「個」概念の再検討に向けた分野横断的研究―思想的背景と文化的実相」日本学術振興会 科学研究費助成事業、基盤研究 (C)、研究代表者：大森雅子、研究番号：23K00436、研究分担者
- ・ 「ポストソ連のメロドラマ文化」日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金(海外連携研究)、研究代表者：安達大輔、研究番号：23KK0004、研究分担者

〈調査活動〉

- ・ 資料調査：
 - ① 革命期の中央アジアにおける女性解放運動 2025年3月28日(金) 東京大学駒場図書館
 - ② 現代ロシアの女性文学 2025年3月29日(土) 東京大学文学部スラブ研究室(本郷)

〈国際共同研究実施状況〉

- ・ プロジェクト名：Cultural Formations Studies VI (言語文化共同研究プロジェクト2024)、研究分担者
- 〈主たる実施者となって開催した学会〉
- ・ 日本ロシア文学会第74回定例総会・研究発表会、プレシンポジウム 2024年10月24日(金) 25日(土) 26日(日)、創価大学、大会実行委員
- 〈主たる実施者となって開催した研究会〉
- ・ 特別セミナー「五所平之助監督のメロドラマ映画『挽歌』における女同士の絆」講師：徐玉(名古屋大学特任助教)、2024年7月16日、大阪大学人文学研究科言文A棟

〔その他の活動〕

〈管理運営〉広報・社会貢献委員委員長(前期)、部会主任、カリキュラム委員、人文学林学術推進部門

〈学会活動〉日本ロシア文学会事務局書記、日本ロシア文学会関西支部理事(支部長職務代行)

小杉 世 (KOSUGI Sei) 教授

<https://sites.google.com/site/seikosugi/>

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉グローバリゼーション論 A・B、現代超域文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〈学部教育担当科目〉グローバリゼーション論 A・B

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉英語圏文学、オセアニアの先住民/移民文学文化と先住民言語教育、ポストコロニアル文化形成論、モダニズム研究、演劇とコミュニティ、環境芸術と文学、核と気候変動の表象、医療と文学、先住民医療

〈所属学会〉日本英文学会(日本英文学会関西支部)、日本オセアニア学会、オーストラリア・ニュージーランド文学会、オーストラリア学会、ASLE-Japan(文学・環境学会)、エコクリティシズム研究学会、日本文化人類学会、日本ヴァージニア・ウルフ協会、NZSA(New Zealand Studies Association, UK)、国際演劇協会(ITI)

[研究業績]

〈編著〉（複数の編者によるもの）

- ・ オセアニア文化事典編集委員会『オセアニア文化事典』丸善出版、2024年10月、総ページ数xxiv,753頁＋図版、※執筆担当箇所「パフォーミング・アーツ（ニュージーランド）」pp.472-473、「現代文学（島嶼部）」pp.490-491.
- ・ 中原聖乃、三田貴、黒崎岳大、聞間元、小杉世、島明美、桑原牧子、吉村健司、市田真理、林田光弘『核問題の「当事者性」——時間と場所を超えた問いかけ』泉町書房、2024年12月、総ページ数239頁、※執筆担当箇所：第3章「太平洋核実験をめぐる当事者性—キリバス共和国クリスマス島の英米核実験を中心に」pp.52-70、第9章「帝国のホモ・サケル—太平洋核実験をめぐる当事者性と芸術の想像力」pp.158-175.
- ・ 小杉世・加藤めぐみ 編『南半球評論』40号、オーストラリア・ニュージーランド文学会、2025年3月（執筆箇所：編集後記）

〈論文〉

- ・ 小杉世「呉明益『雨の島—The Land of Little Rain』——気候変動・障がい者文学と環太平洋的想像力」『Cultural Formation Studies VI—言語文化共同研究プロジェクト2023』大阪大学大学院人文学研究科、2024年5月31日、pp.61-66.
- ・ 小杉世、特別講演（講演録）「帝国のホモ・サケル——太平洋核実験をめぐる芸術の想像力と抵抗・レジリエンスの詩学」KCSSES Newsletter No.40、2025年3月、pp.2-4.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 小杉世「帝国のホモ・サケル——太平洋核実験をめぐる芸術の想像力と抵抗・レジリエンスの詩学」（招待講演）第49回神戸女学院大学英語英文学会、Zoom開催、2024年11月1日.

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費補助金 基盤研究 (B)2024年度～2026年度「トランス／ナショナルな視座からの核・原爆の〈表現〉の研究」（研究代表者：松永京子、課題番号：24K00057、自身の役割：研究分担者）
- ・ 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 2022年度～2025年度「豪マイノリティ作家の21世紀の課題解決に向けたネオ・コスモポリタニズム文学研究」（研究代表者：加藤めぐみ、課題番号：23K21925 (22H00653)、自身の役割：研究分担者）
- ・ 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2022年度～2025年度「人新世の共生をめぐる文学—太平洋島嶼部の先住民・移民文化とグローバリゼーション」（研究代表者：小杉世、課題番号：22K00427、自身の役割：研究代表者）

〈調査活動〉

- ・ キリバス共和国クリスマス島の核実験をめぐる記憶をめぐる調査、軍事施設的环境に及ぼす影響に関する調査

〈国際共同研究実施状況〉

- ・ プロジェクト名：Cultural Formations Studies VII（言語文化共同研究プロジェクト2024）、自身の役割：研究分担者（国外の大学に在職する外国人研究者を含むプロジェクト）、報告書の発行

〈分野横断的研究実施状況〉

- ・ 国立民族学博物館共同研究（プロジェクト名：日本人による太平洋の民族誌的コレクション形成と活用に関する研究——国立民族学博物館所蔵朝枝利男コレクションを中心に、研究代表者：丹羽典生、自身の役割：研究分担者）

[その他の活動]

〈管理運営〉マルチリンガル教育センター長、

〈学会活動〉オーストラリア・ニュージーランド文学会理事・編集委員長、NZSA (New Zealand Studies Association, UK) Council member、エコクリティシズム研究学会地区委員

里内 克巳 (SATOUCHI Katsumi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化共生論 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、英語選択、学問への扉

[研究活動]

〈研究テーマ〉19-20 世紀転換期アメリカ文学における人種・ジェンダー・階級、エスニック文学研究、自伝 (life narrative) 研究

〈所属学会〉日本アメリカ文学会、日本英文学会、日本マーク・トウェイン協会、京大英文学会、日本ウィリアム・フォークナー協会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 里内克巳「詩人と黒人兵士たち——ポール・ロレンス・ダンバーの時代意識」藤本雅樹 (監修)、池末陽子・三宅一平 (編著) 『アメリカン・ポエジーの水脈』 (小鳥遊書房) 2024 年 12 月、pp.313-33.

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 里内克巳「亀井俊介先生とマーク・トウェイン」『マーク・トウェイン 研究と批評』第 23 号 (2024 年 6 月) pp.58-61.

〈研究助成〉

- ・ 基盤研究 C「19-20 世紀転換期アフリカ系アメリカ文学とハーレム・ルネサンスとの接続」 (2024 年 4 月～2027 年 3 月) 研究課題番号 24K03725

〈主たる実施者となって開催した学会〉

- ・ 日本アメリカ文学会関西支部支部長として、以下の支部例会の実施責任者となった。

5/11 総会 (龍谷大学)、6/15 例会 (大阪大学箕面新キャンパス)、7/20 例会 (神戸大学)、10/5 例会 (オンライン)、11/2 例会 (京都ノートルダム女子大学)、12/7 支部大会 (関西大学)、1/11 例会 (オンライン)

[その他の活動]

〈管理運営〉人文学研究科言語文化学専攻 副専攻長

〈学会活動〉日本アメリカ文学会関西支部支部長、日本アメリカ文学会代議員、日本英文学会本部理事

霜島 慶邦 (SHIMOTORI Yoshikuni) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化共生論 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〈学部教育担当科目〉言語文化共生論 a・b

[研究活動]

〈研究テーマ〉現代英語圏文学・文化における第二次世界大戦の記憶の超領域的研究、D.H. ロレンス文学研究

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、言語文化学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 霜島慶邦「アリ・スミス四季四部作における〈共〉(コモン)の可能性」『人文学林』2、2025 年 3 月、pp.75-96.

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 霜島慶邦「河内恵子『書くことはレジスタンスー第二次世界大戦とイギリス女性作家たち』」『ヴァージニア・ウルフ研究』41、2024 年 11 月、pp.130-34.

〈研究助成〉

- ・ 霜島慶邦 (代表) 科学研究費補助金 (基盤研究 C) 「21 世紀イギリス文学における第二次世界大戦の記憶

の諸相」2023-26 年度.

〈調査活動〉

- ・ 第二次世界大戦の記憶に関する現地調査（フランス、2024 年 8 月 28 日～9 月 8 日）.

〔その他の活動〕

〈管理運営〉 研究企画推進委員会委員長

〈学会活動〉 日本英文学会編集委員

鈴木 啓峻 (SUZUKI Keishun) 講師

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 ジェンダー論 A・B

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、ドイツ語グローバル理解、学問への扉

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 トーマス・マン文学を起点とした近現代ドイツ思想研究

〈所属学会〉 日本独文学会、日本独文学会京都支部、阪神ドイツ文学会、帝塚山派文学学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・ 対立するものの「イロニシシュな」結合 ——— トーマス・マン『ヨセフとその兄弟たち』と C.G. ユング [「文化」の読解 (24) : 文化と環境]
- ・ トーマス・マンとマックス・シェーラー ——— 宇宙における人間性の位置 [大阪大学大学院人文学研究科紀要 第二巻]

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ ペーペルコルン・コンプレックスにおける愛と裏切りの黙示録 [日本独文学会 2024 年度秋期研究発表会]
- ・ トーマス・マン『ヨセフとその兄弟たち』とオスカー・ゴルトバルクの思想 [神戸・ユダヤ文化研究会文化講座]

〈研究助成〉

- ・ 科研費研究活動スタート支援「ヴァイマル期の文学と哲学的人間学における〈共感〉の諸相 ——— マンとシェーラーの比較」

中村 綾乃 (NAKAMURA Ayano) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 言語文化形成論A、言語文化形成論B

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級I、ドイツ語初級II、ドイツ語中級

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 ドイツ近現代史、ドイツと東アジア関係史、植民地研究、神戸の外国人コミュニティの歴史

〈所属学会〉 日本ドイツ学会、阪神ドイツ文学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・ 中村綾乃「駐日大使ゾルフ —上下逆さまのオペラグラスで舞台を観る」『言語文化の比較と交流 (11)』pp. 26-36.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 中村綾乃「第二次世界大戦と神戸のドイツ人コミュニティ —戦争とナチズム、迫害の縮図」阪神ドイツ文学会第 245 回研究発表会シンポジウム「ユニオン教会と神戸 — 史料から紐解くドイツ系コミュニティの歴史」

〈研究助成〉

- ・ 研究代表者 科学研究費補助金（基盤 C）「ドイツ帝国の南洋統治と日本の植民地政策」（2020-2024 年度）
- ・ 研究分担者 神戸大学アーバンイノベーション研究プロジェクト神戸市域におけるキリスト教関係史料の整理と観光活用」（2024 年 10 月—2026 年 3 月）
- ・ 研究分担者 科学研究費補助金（基盤 C）「第二次大戦期の日独関係とユダヤ人問題——「上海ゲットー」の設立を中心に」（2023-2027 年度）

〔調査活動〕

- ・ 神戸市 大学発アーバンイノベーション神戸 神戸市 大学発アーバンイノベーション神戸『神戸市域におけるキリスト教関係史料の整理と観光活用』（研究分担者）

〔その他の活動〕

〔学会活動〕 阪神ドイツ文学会幹事（編集委員）

西村 謙一 (NISHIMURA Kenichi) 准教授

〔教育活動〕

〔研究科担当科目〕 グローバリゼーション論 A・B

〔共通教育担当科目〕 多文化コミュニケーション

〔学部教育担当科目〕 東南アジア地域研究概論（オムニバス形式）

〔研究活動〕

〔研究テーマ〕 東南アジア地域研究、フィリピン現代政治研究

〔所属学会〕 日本国際政治学会、日本平和学会、アジア政経学会、日本政治学会

〔研究業績〕

〔論文〕

- ・ 西村謙一「フィリピンの政府間関係—地方政府は自律性を高めたか—」公益財団法人日本都市センター『都市とガバナンス』42 号、2024 年 9 月、pp. 103-111。
- ・ Nishimura, Kenichi, “Trust in Local Government and Life Satisfaction: An Empirical Study of the Philippines,” *Journal of Multicultural Education and Student Exchange* 29, pp. 21-30.

〔研究発表・講演・学会報告〕

- ・ Nishimura, Kenichi, “Trust in Local Government and Life Satisfaction: An Empirical Study of the Philippines,” 2024 Korean Public Administration Summer Conference and Annual KAPA International Conference, June 21, 2024

〔研究助成〕

- ・ 科学研究費補助金基盤研究（B）令和 2 年度～令和 5 年度「東南アジア地方自治ガバナンスと住民意識の分析—インドネシア、フィリピンの比較—」研究代表者（繰越）

〔その他の活動〕

〔管理運営〕 男女協働推進センター会議委員、人権委員会委員

平山 晃司 (HIRAYAMA Koji) 教授

〔教育活動〕

〔研究科担当科目〕 超領域文化論 A・B、超領域文化論特別研究 A・B

〔共通教育担当科目〕 ギリシャ語初級・中級、ラテン語初級・中級

〔研究活動〕

〔研究テーマ〕 西洋古典学、古代ギリシアの法と宗教

〔所属学会〕 日本西洋古典学会

〔その他の活動〕

〔管理運営〕 超領域文化論講座代表者、安全衛生委員会委員長、紀要編集委員会副委員長、設備・施設マネジメント委員会委員

【表象文化論講座】

木原 善彦 (KIHARA Yoshihiko) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉表象文化論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉現代英語圏小説およびその翻訳

〈所属学会〉日本英文学会、日本アメリカ文学会、京大英文学会

〔研究業績〕

〈編著〉（複数の編者によるもの）

- ・ 橋本安央、藤井光、坂根隆広編『アメリカ文学史への招待——豊饒なる想像力』（法律文化社、2025 年 2 月）、分担執筆 範囲：I-6-2-(6)/II-26

〈論文〉

- ・ 「Richard Powers の作品における危機と世界と分岐点：still という無時間性と時制の問題」大阪大学言語文化共同研究プロジェクト 2023 Cultural Formation Studies VI pp.5-14

〈翻訳書〉

- ・ （単訳）エヴァン・ダーラ『失われたスクラップブック』（幻戯書房、2024 年 12 月）

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ シンポジウム「危機の時代と批評」日本英文学会（2024 年 5 月 5 日於東北大学）、登壇者：ハーン小路恭子、岩 川ありさ、木原善彦、佐久間由梨

〔その他の活動〕

〈管理運営〉表象文化論講座代表

〈学会活動〉日本アメリカ文学会関西支部運営委員

佐高 春音 (SATAKA Harune) 講師

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉翻訳研究 A・B

〈共通教育担当科目〉中国語初級 I・II、国際コミュニケーション演習（中国語）、中国語中級

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉中国明清時代の通俗小説

〈所属学会〉中国古典小説研究会、日本中国学会、東方学会、慶應義塾中国文学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・ （会議論文）「評點本《水滸傳》批語如何涉及故事人物」（『第四屆近世意象與文化轉型國際學術研討會 會議論文集【II】』、2024 年 4 月、157-163 頁）

〈翻訳・翻訳書〉

- ・ （映画字幕翻訳）陳宏一監督『金魚の記憶』（原題『（真）新的一天』、台湾文化センター「台湾映画上映会 2024」で上映、2024 年 5 月、共訳者：吉川龍生）

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 「駒田信二の『水滸伝』」（『季刊文科』第 98 号、2024 年 12 月、199-205 頁）

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 「評點本《水滸傳》批語如何涉及故事人物」 (第四屆近世意象與文化轉型國際學術研討會、2024 年 4 月 26 日)
 - ・ 「金聖歎本《水滸傳》: 文本與評點的新式融合及其閱讀樂趣」 (中央研究院「東亞文化交流視域下的城市書寫」主題計畫「明清文學在東亞」、2024 年 8 月 30 日)
 - ・ 「中国明清時代に見られる新たな読書と娯楽のスタイル —— 『水滸伝』の「評点」からひも解く」 (第 9 回大阪大学豊中地区研究交流会、2024 年 11 月 22 日)
- 〈研究助成〉
- ・ 科学研究費助成事業 若手研究「明清通俗小説刊本における諸記号の研究: 『水滸伝』を中心に」 (研究課題番号: 24K15997、研究代表者)
- 〔その他の活動〕
- 〈管理運営〉 マルチリンガル教育センター言語学習支援オフィス委員、人権問題委員会委員、キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員
- 〈社会貢献活動〉 放送大学大阪学習センター講師「中国語入門: 発音と文法の基礎」 (2024 年 12 月 7 日、8 日)
- 〈市民向け講座・講演〉
- ・ 「作品の多様な変容をめぐって: 中国小説『水滸伝』を例に」 (大阪大学人文学研究科言語文化学専攻 令和 6 年度公開講座「LC セミナー 2024: ことばと文化を巡る諸相」、2024 年 9 月 21 日)
 - ・ 「水滸伝」 (中国古典小説研究会 2024 年度関西例会 特別企画・公開シンポジウム『中国古典小説のここが面白い!』第 1 回「研究者、押し作品を語る」、2025 年 3 月 23 日)

田中 智行 (TANAKA Tomoyuki) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 言語文化比較交流論 A・B

〈共通教育担当科目〉 中国語初級、中国語中級

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 中国古典文学研究 (白話小説)

〈所属学会〉 日本中国学会、東方学会、中国人文学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・ 「『金瓶梅』の上京場面にみられる歌唱描写: 解説と訳注」 (『言語文化の比較と交流 11』、2024 年 5 月)
- 〈書評・論評・紹介〉
- ・ 事典項目執筆「金瓶梅」「金聖歎」「李漁」 (川合康三他編『中国日本「漢」文化大事典』明治書院、2024 年 6 月)
 - ・ 「ニセモノの本領: 『駒田信二の金瓶梅』をめぐって」 (『季刊文科』98、2024 年 12 月)

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費補助金 (基盤研究 C) 「全訳と詳注の作成による『金瓶梅』終盤の研究」

〔その他の活動〕

〈管理運営〉 中国語部会主任、カリキュラム開発オフィス委員、過半数代表者

〈社会貢献活動〉 放送大学大阪学習センター講師

津田 保夫 (TSUDA Yasuo) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tsuda/>

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 言語文化比較交流論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）、学問への扉

[研究活動]

〈研究テーマ〉18世紀ドイツ文学・思想史、村上春樹研究

〈所属学会〉日本独文学会、阪神ドイツ文学会、日本ヘルダー学会

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院教務委員会委員長

〈学会活動〉日本ヘルダー学会理事

林 千宏 (HAYASHI Chihiro) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉表象文化論 A・B

〈共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語中級、フランス語中級選択、地域言語文化演習（フランス語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉16世紀フランス文学、書物の歴史

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本フランス語フランス文学会関西支部、日本ロンサール学会、大阪大学フランス語フランス文学研究会

[研究業績]

〈研究発表〉

- ・ « La réception des chansons sur des poèmes de Ronsard au Japon », Atelier « Réception et traduction de Ronsard en Asie : poésie et musique » [en visio-conférence], 66e colloque international d'études humanistes: RonsArt, Centre d'études supérieures de la Renaissance, Tours, 11 septembre (フランス、トゥール、ルネサンス高等研究所、9月11日)
- ・ « Renouveler la lecture des Amours (1552) de Ronsard pour une traduction intégrale », ワークショップ「ロンサール『恋愛詩集』(1552)の新たな読解・翻訳に向けて」日本フランス語フランス文学会 2024 年度秋季大会, 関西学院大学, 10月27日

〈研究助成〉

- ・ 科研費基盤 (B) 「初期近代西欧の視覚芸術における多様性と発想：美術と修辞学の創造的共同」（研究代表者 桑木野幸司）研究分担者
- ・ 科研費基盤 (C) 「16世紀フランスにおけるエピグラム・エンブレム・ソネ：印刷本としての抒情詩集研究」研究代表者課題番号 (23K004210)

[その他の活動]

〈管理運営〉マルチリンガル教育センター カリキュラム開発オフィス長

〈学会活動〉日本ロンサール学会幹事、同学会編集委員、大阪大学フランス語フランス文学研究会編集委員

〈社会貢献活動〉文部科学省後援実用フランス語技能検定試験専門委員、日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員

福田 覚 (FUKUTA Satoshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉表象文化論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ、地域言語文化演習（ドイツ語）、ドイツ語中級、

[研究活動]

〈研究テーマ〉18世紀詩学史、ドイツ啓蒙主義、自己表象物語

〈所属学会〉日本独文学会、同京都支部会、日本18世紀学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 「詩論における虚飾の評価とロンギノスへの視線ー文学論争の再考にむけて(5)」『ドイツ啓蒙主義研究』第21号（ドイツ啓蒙主義研究会、2024年7月31日）S.35-59
 - ・ 「異界を歩んだ「私」の揺らぎー自己表象物語の書き換えについて（三）」『希土』（希土同人社、2024年9月1日）第49号 S.25-80
- 〔研究助成〕
- ・ 「ドイツ啓蒙主義詩学史の再記述ー模倣・想像・情念の複合性をめぐる概念史として」（研究代表者）2021年度～25年度、科学研究費補助金 基盤研究(C)
- 〔その他の活動〕
- 〈管理運営〉専攻設備・施設マネジメント委員会委員、専攻広報・社会貢献検討委員会委員、CME カリキュラム委員会委員、

村上スミス アンドリュー (MURAKAMI-SMITH, Andrew) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉翻訳研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Performance Workshop)、総合英語 (Project-Based)

〈国際交流科目担当科目〉近代・現代日本文学、近代日本文学における大阪

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉近代・現代日本文学、日本の地域言語文化、翻訳理論と実践

〔研究業績〕

〔論文〕

- ・ 「Writing the City in and against the “Osaka Tradition”」言語文化共同研究プロジェクト2023『こちら側とあちら側のレトリックーメタファー・翻訳・認知ー』（大阪大学人文学研究科言語文化学専攻、2024）

〔その他の活動〕

〈管理運営〉全学国際交流委員会傘下 OUSSEP 運営 WG 委員

〈社会貢献活動〉石橋キッズランド代表、池田市バリアフリー推進協議会委員

山本 佳樹 (YAMAMOTO Yoshiki) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉表象文化論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ、地域言語文化演習（ドイツ語）、学問への扉

〈学部教育担当科目〉表象文化論 a・b

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉映画学、ドイツ文化

〈所属学会〉日本映画学会、日本映像学会、表象文化論学会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

〔研究業績〕

〈編著〉（複数の編者によるもの）

- ・ 山本佳樹（責任編集）、市川明、香月恵里、増本浩子（編集）、『ドイツ文学と映画』、三修社、2024年11月

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 山本佳樹「書評：杉野健太郎（編著）『映画史の論点ー映画の〈内〉と〈外〉をめぐって』（ミネルヴァ書房、2023年）」、『日本映画学会会報』73、pp. 20-25、2024年11月

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 山本佳樹「呪われた映画？ーアメリカ、スイス、日本におけるナチ映画の受容」、日本映画学会第20回大

会 シンポジウム「ナチ映画の周辺—その受容と抵抗をめぐって」、2024 年 12 月 14 日

- ・ 山本佳樹「ヴァイマル期のドイツ映画における異性装」、第 45 回まちかど CAFÉ、2024 年 10 月 23 日
〈研究助成〉

- ・ 戦時下の日本におけるドイツ映画の受容についての研究、科学研究補助金・基盤研究 C、研究代表者、2021 年度-2024 年度

〔その他の活動〕

〈管理運営〉人文学研究科言語文化学専攻長、人文学研究科副研究科長、人文学研究科教学委員会委員長

〈学会活動〉日本映画学会顧問

〈社会貢献活動〉ドイツ語学文学振興会賞審査者

ヨコタ村上 孝之 (YOKOTA-MURAKAMI Takayuki) 准教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~murakami>

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉比較言語文化交流論

〈共通教育担当科目〉ロシア語初級、ロシア語上級、地域文化演習（ロシア語）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉比較文学・文化理論、セクシュアリティの系譜学的研究、現代日本コミックス・アニメ研究

〈所属学会〉日本比較文学会、日本ロシア文学会、日本ロシア東欧学会、日本トルストイ学会、ENCLS, ICLA, EAJS

〔研究業績〕

〈単著〉

- ・ ヨコタ村上孝之『道ならぬ恋の系譜学：近代作家の性愛とタブー』（平凡社、2024 年 8 月）

〈創作・翻案〉

- ・ ロシア語歌曲 «Старый муж, грозный муж»（プーシキンの詩による）<https://publish.piascore.com/scores/340892>

- ・ 「トルストイによるワルツ」（レフ・トルストイのワルツを編曲したもの）<https://publish.piascore.com/scores/297090>

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 「色気ってナンだ？ 東西比較文化的考察」『アートコレクターズ』2024 年 7 月号 10-11 頁

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ “Is Music Universal? – On Mutual Understanding, Empathy, and their Problematics.” The 7th World Humanities Forum. Nov. 8, 2024. Busan, Korea.
- ・ “On the Constitutive Affinity between Comics and Music: The Case of Eguchi Hisashi's *Go, Pirates!*” CLAI (Convention of the Indian Association of Comparative Literature). Sept. 11, 2024. Delhi University. Delhi, India.
- ・ “How to Do With Literature/Music Produced by AI: A Challenge for Comparativists in the 21st Century.” KEASTWEST congress. May 25, 2024. Dongguk University. (Keynote speech)

〔その他の活動〕

〈学会活動〉国際比較文学会理事

〈社会貢献活動〉

2021 年第五回「大人の音楽会」を、「響き合う言語・文化・音楽」とのタイトルで主催し、言語・文化・音楽の関係を研究するイベントとして一般に公開した。2025 年 3 月 22 日、大阪大学会館講堂。

科学研究費「A・ルビンシュテインの文学的活動の研究」を用いて、ワークショップ「ロシアにおけるロマとユダヤ——文学と音楽におけるその意味」を開催し、一般に開放した。2024 年 9 月 30 日、大阪大学会館講堂。

渡辺 貴規子 (WATANABE Kimiko) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉翻訳研究 A・B

〈共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語中級、地域言語文化演習（フランス語）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉フランス児童文学、日仏比較文学、翻訳児童文学

〈所属学会〉日本児童文学学会、日本フランス語フランス文学会、日本比較文学会、International Research Society for Children's Literature、Association des Amis d'Hector Malot

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・ 「大正期の少女雑誌『新少女』における西洋文化の受容ーフランスに関する記事を中心にー」『言語文化の比較と交流』11号、2024年5月、45-60頁。
- ・ 「大正期の少女雑誌『新少女』における西洋の女性の伝記」『大阪大学大学院人文学研究科紀要』第2巻、2025年3月、95-119頁。

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 福田義昭、橋本順光、鈴木暁世、渡辺貴規子「越境の研究、研究の越境」大阪大学人文学研究科人文学林シンポジウム、大阪大学、2024年11月14日（シンポジウムパネリスト）。
- ・ 「大正期の少女雑誌に掲載された女性の伝記の様相」、日本児童文学学会第63回研究大会、京都華頂大学、2024年12月1日。

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費助成事業（科研費）若手研究 研究代表者：「明治後期から大正初期の少女雑誌におけるフランス文学・フランス文化の受容」研究課題番号 21K12971（2021年4月～2025年3月）

〔その他の活動〕

〈管理運営〉大阪大学言語文化学会委員長、広報・社会貢献検討委員会委員（前期）

〈学会活動〉日本児童文学学会事務局長・理事、日本フランス語フランス文学会関西支部実行委員、大阪大学フランス語フランス文学会委員、日本児童文学学会関西例会実行委員

【コミュニケーション論講座】

井坂 ゆかり (ISAKA Yukari) 講師

〔教育活動〕

〈共通教育担当科目〉ドイツ語中級、ドイツ語初級、地域言語文化演習（ドイツ語）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉現代ドイツ語の人称代名詞の用法

〈所属学会〉日本独文学会、東京外国語大学大学院ドイツ語学文学研究会、ドイツ文法理論研究会、日本言語学会、Societas Linguistica Europaea（欧州言語学会）

〔研究業績〕

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 井坂ゆかり「動詞の解釈と相関詞 *—erlauben* の実例調査からー」京都ドイツ語学研究会第114回例会、2024年11月30日
- ・ 井坂ゆかり、梅谷博之「ワールド・ランゲージ・センターの多言語 Can Do テストの統括」立教大学外国語教育センター公開シンポジウム「高等教育機関における言語教育の未来ーCEFR-Jの開発と多言語への応用」、2024年7月31日

〔その他の活動〕

〈学会活動〉日本独文学会語学ゼミナール実行委員

〈市民向け講座・講演〉大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻公開講座 LC セミナー2024、東京外国語大

植田 晃次 (UEDA Kozi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究 A・B（副題：言語とモビリティ）、コミュニケーション論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉朝鮮語初級 I・II、朝鮮語中級、国際コミュニケーション演習（朝鮮語）、地域言語文化演習（朝鮮語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本における朝鮮語教育史、在外朝鮮民族の言語をめぐる諸問題、朝鮮語に対する言語政策

〈所属学会〉朝鮮学会、多言語社会研究会、朝鮮史研究会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 「松岡馨と朝鮮語 ―人物史と学習書を通して―」『人文学林』2、大阪大学大学院人文学研究科、2025 年 3 月、23-36 頁（査読あり）
- ・ ‘혼다 아리아(本田存)와 강의록 ‘한어회화(韓語會話)’를 통해서 본 메이지 유신 이후의 일본인과 한국어’ “2024 국어학회・조선어연구회 공동학술대회 ― 근대 이후 한국어 연구 교류사 ― 발표자료집“ 국어학회・조선어연구회, 2024. 8, 155-168 쪽（招待）
- ・ 「日本近代朝鮮語教育史の視点から見た笹山章と朝鮮語（2） ―『普通学校に於ける国語教授の理論と実際』を手掛かりに―」、『批判的社会言語学の様相（言語文化共同研究プロジェクト 2023）』、大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻、2024 年 5 月、29-40 頁

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・（講演）「日本語での the Korean language の「呼称問題」の問題を考える―知と情の相克を超えて―」日本韓国研究会 第 9 回研究例会（ミニシンポジウム：日本語で朝鮮語、韓国語、コリア語、ハングル…といわれる言語をどう呼ぶか）、2025 年 3 月 16 日（招待）
- ・（ 기획발표）‘혼다 아리아(本田存)와 강의록 ‘한어회화(韓語會話)’를 통해서 본 메이지 유신 이후의 일본인과 한국어’ 2024 국어학회・조선어연구회 공동학술대회 ― 근대 이후 한국어 연구 교류사 ―（2024 年 국어학회 여름 국제학술대회/제 279 회 조선어연구회）、2024. 8. 12（招待）

〈研究助成〉

- ・2023～2025 年度（予定）：科学研究費補助金基盤研究（C）「『旧朝鮮語学』と 20 世紀後半の朝鮮語教育から見た日本近現代朝鮮語教育史の研究」（研究課題番号：23K00745、研究代表者）

[その他の活動]

〈管理運営〉

- ・マルチリンガル教育センター：カリキュラム委員会副委員長、言語教育副推進部長、派遣教員（以上はそれぞれ 2024.11～2025.3）、朝鮮語教育推進部会主任、運営委員会・カリキュラム委員会・カリキュラム小委員会・言語教育推進部会主任会議・広報委員会・社会貢献委員会・特任教員（外国語教育等）人事委員会の各委員ほか
- ・言語文化研究科：（部内）〈部会選出〉朝鮮語部会主任、部会主任会議・財務会計委員会・紀要編集委員会・安全衛生委員会の各委員、〈講座選出〉研究企画推進委員会・国際交流委員会の各委員
- 〈学会活動〉朝鮮学会常任幹事・編輯委員（2020 年 4 月～）

榎本 剛士 (ENOMOTO Takeshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉コミュニケーション論 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Content-based English)、総合英語 (Performance Workshop)

〈学部教育担当科目〉コミュニケーション論 a・b（外国語学部外国語学科 学共-方法論）

[研究活動]

〈研究テーマ〉記号論、言語人類学、語用論、実践論・出来事論としてのコミュニケーション研究、言語イデオロギーを含むメタ・コミュニケーション研究、言語人類学の枠組みを援用した近現代日本の英語教育研究

〈所属学会〉社会言語科学会、日本英語教育史学会、International Association for Semiotic Studies、International Pragmatics Association

[研究業績]

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「指標と AI 認識：記号論の観点から」「AI を味方にするためのコミュニケーション研究」（企画責任者：菊地浩平、話題提供者：岡田智裕・坂井田瑠衣・Junwen Mo・Minh-Duc Vo・中山英樹・榎本剛士、指定討論者：喜多壮太郎）、身体記号学クロージングカンファレンス、2025 年 2 月 10 日

・Body, Language, Metacommunication: Semiotic Reality of Human Multimodal Communication in Context, 16th World Congress of the International Association for Semiotic Studies, 2024 年 9 月 2 日

・「特別講演 『英語教育』に『コミュニケーション』の矢を放つ」全国英語教育学会第 49 回福岡研究大会、2024 年 8 月 24 日

〈研究助成〉

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究強化 (B)「言説の変革を実現する言語教育観の国際比較研究」（2022 年 10 月～2027 年 3 月）研究分担者（研究代表者：嶋津百代）

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術変革領域研究 (B)「音声会話に伴う身振りを対象としたマルチモーダル記号論の構築」（2022 年 5 月～2025 年 3 月）研究分担者（研究代表者：高梨克也）

〈国際共同研究実施状況〉

・科学研究費助成事業 国際共同研究強化 (B)「言説の変革を実現する言語教育観の国際比較研究」

【自身の役割】研究分担者【対象期間中のアウトカム】2024 年 11 月 30 日（土）に東京で、12 月 21 日（土）に大阪で、主に日本語教育に関わる教師を対象としたワークショップ「わたしがやりたい『ことばの教育』、わたしがやっている『ことばの教育』」を開催し、ことばの教師が置かれた状況や、無意識に持っているイデオロギーなどについて、アクティビティを通じて意識化する機会を提供した。

〈分野横断的研究実施状況〉

【プロジェクト名】科学研究費助成事業 学術変革領域研究 (B)「音声会話に伴う身振りを対象としたマルチモーダル記号論の構築」（ウェブサイト）<https://research.nii.ac.jp/EmSemi/index.html>【自身の役割】研究分担者【対象期間中のアウトカム】2025 年 2 月 10 日・11 日に、本領域研究の「クロージングカンファレンス」が開催された。相互行為における特定の身体動作（手話を含む）のアノテーションをはじめ、情報学、工学（AI、機械学習）、記号論、ジェスチャー研究など、様々な分野の研究者による話題提供、シンポジウム、講演を通じて、日本のコンテクトならではの協働に基づく新たな視座を提起した。

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化学専攻学生支援委員会委員長、人文学研究科教学委員会委員、マルチリンガル教育センターカリキュラム開発オフィス員

〈学会活動〉社会言語科学会研究大会発表賞選考委員会委員

〈社会貢献活動〉放送大学大阪学習センター客員准教授

王 周明(WANG Zhouming) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉語用論研究 A・B、コミュニケーション論特別研究 A・B、研究実践基礎、研究発表演習

〈共通教育担当科目〉中国語初級 I・II、国際コミュニケーション演習（中国語）、中国語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国語歴史文法、方言文法、語用論

〈所属学会〉日本中国語学会、日本中国近世語学会、中日理論言語学研究会

[研究業績]

〈調査活動〉中国史的文献における言語策略に関する諸問題

[その他の活動]

〈管理運営〉人文学研究科言語文化専攻コミュニケーション論講座代表者、マルチリンガル教育センター
中国語カリキュラム委員

〈学会活動〉学術誌の査読業務

佐藤 彰 (SATO Akira) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究 A・B、コミュニケーション論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉談話分析、社会言語学、語用論

〈所属学会〉International Pragmatics Association、社会言語科学会、言語文化学会

〈研究助成〉

・科学研究費補助金「有事における指導者とその報道の談話分析的研究」研究代表者

[その他の活動]

〈管理運営〉言語教育開発オフィス TOEFL ITP および E-learning 教材ライセンス管理補助 (英語部会)、公開講座委員 (コミュニケーション論講座)、入試委員 (人文学研究科)、入試科目別連絡委員 (全学)

〈学会活動〉メディアとことば研究会役員

秦 かおり (HATA Kaori) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語コミュニケーション特別研究 A・B、社会言語学研究 A・B、

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Project-based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉社会言語学、相互行為論、コミュニケーション学、ナラティブ研究。特に、排除、差別問題。移民としての在英邦人女性を取り巻く社会的文化的環境の調査

〈所属学会〉社会言語科学会、国際語用論学会、日本英語学会、日本社会学会、日本語用論学会、日本メディア学会、カルチュラル・スタディーズ学会

[研究業績]

〈編著〉

- ・ 田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝 (2025) 『動的語用論の構築へ向けて』第4巻, 開拓社
- ・ 秦かおり (2024) 「デジタルネイティブによる新型コロナウイルスについての初対面会話——共感の構築はどのようなされるか——」龍谷大学 国際社会文化研究所 紀要 (26 号) pp. 173-185

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・「談話研究でみえてくるもの—談話研究の基礎から実践まで—」(招待講演: 単独) 於: 華中科技大学, 2024 年 9 月 26 日
- ・“Pragmatics in Japan——A Trend and Applicability——”(Keynote Speech: 招待講演・単独) The 2nd International Conference on East Asian Pragmatics, 於: 中国海洋大学, 2024 年 12 月 8 日
- ・“Disaster narratives in the first meeting discourse of digital natives,” (共同発表筆頭著者, 村田和代・吉田悦子と共に) Sociolinguistics Symposium 25, 於: Curtin University, Australia, 2024 年 6 月 27 日
- ・“Resilience in New Classroom Styles: A Case Study of Face-to-Face, Online, and Hybrid Transitions in Graduate Seminar

Courses (パネル企画者) 於: Curtin University, Australia, 2024 年 6 月 26 日

- ・“Considering Resilience in the New Classroom Situation from Ba Theory: A Case Study of Changes and Distortions in the Framework of Participation and Involvement in Face-to-Face, Online, and Hybrid Classes under the COVID-19 pandemic,” 共同発表 (泉谷律子と共に) Sociolinguistics Symposium 25, 於: Curtin University, Australia, 2024 年 6 月 26 日
- ・「語り」の研究でみえてくるもの——ナラティブ研究の基礎から実践まで——, (単独) 大阪大学大学院人文学研究科「現代と教養 人文学基礎: 人文学と対話」オンライン配信対話と探究: ナラティブコミュニケーションの観点から (オンデマンド教材: 2024 年~2025 年配信予定)

〈研究助成〉

- ・科学研究費基盤 B「COVID-19 とデジタルネイティブ世代—多言語による語りの収集と分析」、分担者、(代表: 村田和代)、2022-2024 年度
- ・科学研究費基盤 C「異文化理解のための話し葉コーパス—国際共通語としての英語で学ぶ現代日本社会」、分担者、(代表: 山口征孝)、2022-2024 年度
- ・国語研究所共同研究プロジェクト「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」、共同研究員、研究代表者: 小磯花絵 (国立国語研究所)、2022~2027 年度

〈国際共同研究実施状況〉

- ・「COVID-19 とデジタルネイティブ世代—多言語による語りの収集と分析」、分担者 (日本チーム)、(研究代表者: 岩崎勝一 (UCLA))

〈分野横断的研究実施状況〉

- ・「国際共修型」文学模擬裁判メソッドの開発 —市民性を醸成する対話教育を目指して—、模擬裁判の談話分析的分析を担当、代表者: 札埜和男 (龍谷大学)

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

- ・第 27 回日本語用論学会、2024 年 11 月 30 日~12 月 1 日、大阪大学豊中キャンパス (一部ハイブリッド)

〔その他の活動〕

〈管理運営〉人文学研究科入試・広報委員会広報委員会、人文学林融合教育推進部門、広報・社会貢献委員会副委員長、英語部会主任

〈学会活動〉日本語用論学会会長、日本語用論学会評議員、カルチュラル・スタディーズ学会編集委員、メディアとことば研究会世話人、『語用論研究』査読担当、『年報カルチュラル・スタディーズ』査読担当、『社会言語科学』査読担当

村岡 貴子 (MURAOKA Takako) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉コミュニケーション論 A・B、言語技術研究 A・B

〈共通教育担当科目〉専門日本語

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉日本語アカデミック・ライティングの学習と教育に関する研究、専門日本語教育研究

〈所属学会〉日本語教育学会、専門日本語教育学会、社会言語科学会、日本文体論学会、異文化間教育学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・村岡貴子・Soysuda Na Ranong (2024) 「タイの大学院生の論文執筆上の困難点と課題—研究支援に必要な支援を求めて—」『Thammasat Journal of Japanese Studies』41-2, pp.92-110. (査読有)
- ・卓妍秀・福良直子・和嶋雄一郎・村岡貴子 (2025) 「理工系大学院英語プログラム留学生の日本語学習とキャリア形成—研究室の環境とコミュニケーションの観点から—」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第 29 号, pp.59-68.
- ・中島祥子・村岡貴子 (2025) 「専門教育課程在籍学生によるアカデミック・ライティング教育への振り返り

「初年次教育受講者へのインタビュー結果から」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第29号、pp.69-80.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・劉東・蔡苗苗・村岡貴子（2025）「日本語学習者による論文の引用箇所判断の実態—中国の大学の日本語専攻生への調査を通して—」大阪大学第9回豊中地区研究交流会（2024年11月22日、大阪大学）

・村岡貴子（2025）「講義① 日本語教育1：科学技術日本語の世界—日本語教育に資する知見を求めて—」『筑波大学 さくらサイエンスプログラム AI、ICT を活用した日本語教育実践に向けた日本語教師育成と日本語教材開発に関する共同研究に向けた交流』（2025年1月27日、筑波大学）（招待）

・村岡貴子（2025）「趣旨説明：留学生の研究コミュニティに着目する意義を共有する」第17回大阪大学専門日本語教育研究協議会「大学の研究室コミュニティで見られるコミュニケーションの諸相—理工系研究室の留学生の事例分析から専門日本語教育・学習支援を再考する—」（2025年2月18日、大阪大学）

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究(B)課題番号:21H00537 令和3年度~令和7年度「アジア圏留学生の学修・キャリア支援教育における総合的支援に関する学際的研究」研究分担者

・科学研究費補助金基盤研究(A)課題番号:21H04417 令和3年度~令和7年度「海外縦断作文コーパスの構築に基づく文章算出能力の発達過程の実証的研究」研究分担者

・科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号:22K00637 令和4年度~令和6年度「理工系英語コース留学生の研究・就職に必要な日本語能力の分析と日本語教育への応用」研究分担者

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・第17回大阪大学専門日本語教育研究協議会「大学の研究室コミュニティで見られるコミュニケーションの諸相—理工系研究室の留学生の事例分析から専門日本語教育・学習支援を再考する—」（2025年2月18日、大阪大学）

[その他の活動]

〈管理運営〉教育課程委員会委員、マルチリンガル教育センター兼任教員、豊中地区研究交流会委員、国際教育交流センター教務委員会委員長

〈学会活動〉社会言語科学会学会誌編集委員会委員、日本語教育学会査読・運営協力員、日本文体論学会査読協力者、国立国語研究所共同研究プロジェクト「多様な言語資源に基づく日本語非母語話者の言語運用の応用的研究 日本語母語話者の作文の縦断コーパス研究」プロジェクト構成員、国立国語研究所共同研究プロジェクト「多言語・多文化社会における言語問題に関する研究」プロジェクト構成員

山下 仁 (YAMASHITA Hitoshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究A・B、言語コミュニケーション論特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉社会言語学、ドイツ語学

〈所属学会〉日本独文学会、阪神ドイツ文学会、文法理論研究会、多言語社会研究会、多言語化現象研究会、IVG（国際ゲルマニスト会議）

[研究業績]

〈研究ノート〉

・「批判的社会言語学とウェルフェア・リングイスティクスの接点：あらたな批判的社会言語学の可能性について」、『言語文化共同研究プロジェクト2023：批判的社会言語学の様相』（大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻編）、査読無、41-54ページ、2024年

〈書評・論評・紹介〉

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「Schnittstelle zwischen kritischer Diskursforschung und Wohlfahrts-linguistik」、AGT (アジアゲルマニスト会議)、2024年8月27日、招待講演

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・「CDS 研究会」、2024年4月6日、5月19日、6月22日、7月21日、9月21日、10月19日、11月16日、12月22日、2025年1月25日、2月23日、3月15日、大阪大学人文学研究科言語文化学棟。

[その他の活動]

〈管理運営〉リーディング大学院超域イノベーション博士課程プログラム学内プログラム委員、人文学林インターンシップ・チームメンバー、

〈学会活動〉多言語社会研究会編集委員、多言語化現象研究会運営委員

義永 美央子 (YOSHINAGA Mioko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉コミュニケーション論A・B、コミュニケーション論特別研究A・B

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本語教育学、応用言語学

〈所属学会〉日本語教育学会、社会言語科学会、言語文化教育研究学会、異文化間教育学会、第二言語習得研究会、日本語教育方法研究会

[研究業績]

〈論文〉

・義永美央子「言語学習アドバイジングの実践を通じた支援者の学び—教師の役割の再検討」『ヨーロッパ日本語教育』27, 421-433.

・瀬井陽子・義永美央子「言語学習アドバイジングの現場から見る留学生の日本語学習の現状と課題—OU マルチリンガルプラザの事例から」『多文化社会と留学生交流』29, 49-57.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・小林ミナ・中島祥子・義永美央子・小河原義朗「中堅日本語教師研修の実践と課題—日本語教育学会 JCN 研修を事例にして」日本語教育学会 2024 年度春季大会・パネルセッション、2024 年 5 月 25 日

・義永美央子「自ら学び続けるために—学習者と教師のオートノミー」日本語教育振興協会令和6年度日本語学校教育研究大会・分科会 II、2024 年 8 月 6 日

・SEL, Yoko, ABE, Maya, and Mioko YOSHINAGA. “Collaborating to Clarify Pathways for Multilingual Support” JASAL 2024 National Conference, 2024 年 10 月 26 日

・瀬井陽子・義永美央子「大阪大学の SALC における日本語学習アドバイジングと大学院生スタッフの育成」第 13 回留学生交流・指導研究会、2025 年 2 月 13 日

・三代純平・義永美央子・上田安希子・永富あゆみ・千葉美由紀「『聞き書き』を取り入れた活動の可能性—『対話をつくる活動実践研究会（仮称）』立ち上げに向けて」言語文化教育研究学会第 11 回年次大会・フォーラム、2025 年 3 月 1 日

・義永美央子「母語話者日本語教師としての私の経験・研究・実践」嶋津百代・門脇薫・朴秀娟・平塚貴晶・山崎直樹・義永美央子「ネイティブ・ノンネイティブを巡る物語」科研費研究成果報告会・公開シンポジウム「言語能力・言語教育・言語教師教育からコミュニケーションを語る」、2025 年 3 月 8 日

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号:23K00607 2023 年度～2026 年度「実践コミュニティとしての SALC における言語学習支援とオートノミーの育成」研究代表者

・科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号:20K00713 2020 年度～2023 年度「日本語教師養成における実践的コミュニケーション能力育成プログラムの開発」研究分担者 (2024 年度まで延長)

[その他の活動]

〈管理運営〉国際教育交流センター副センター長、大学院人文学研究科兼任教員、マルチリンガル教育センター兼任教員、マルチリンガル教育センター学習支援・社会学共創開発オフィス員、豊中地区研究交流会委員会委員、国際教育交流センター人権・ハラスメント対策委員会委員長、国際教育交流センター教務委員

〈学会活動〉

日本語教育学会 理事、社会言語科学会 査読協力者、言語文化教育研究学会 査読協力者

〈社会貢献活動〉

・文部科学省・日本語教育学会受託 日本語教育人材の研修プログラム普及事業（日本語教師【中堅】に関する研修）「日本語教育学会の人材、知財、ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プログラム」（JCN 研修）運営委員会委員長

・国際交流基金 日本語専門家派遣事業検討委員会委員

〈市民向け講座・講演〉

・「学習意識を改革する8つの法則と教室での実践（応用編）」凡人社オンライン日本語サロン研修会、2024年6月15日

・「『一歩進んだ日本語教育概論』授業での活用例」凡人社日本語サロン@大阪「社会につながる日本語教師養成のための理論と実践」、2024年6月16日

・「『学習意識改革ノート』を用いた自律学習支援の方法」凡人社日本語サロン講座、2024年7月5日

・「自分らしく学ぶとは—自律学習支援のための道しるべ」大阪YMCA 日本語教育センター・日本語教師のためのじっくり学ぶ講座、2024年7月31日-8月28日（全4回）

・「対話を通じた意識改革と言語学習—言語学習アドバイジングの理論と実践」令和6年度熊本大学公開講座「ことばの教育・研究を考える」、2025年2月1日

劉 驪 (LIU Biao) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉日本語学演習2（神戸市外国語大学大学院外国語学研究科 非常勤講師）

〈共通教育担当科目〉中国語中級、中国語初級Ⅰ、中国語初級Ⅱ、中国語初級Ⅰ選択、中国語初級Ⅱ選択、国際コミュニケーション演習（中国語）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉現代中国語におけるポライトネス、及び、中国語発音教育に関する研究

〈所属学会〉日本中国語学会、日中対照言語学会

〔研究業績〕

〈単著〉

・劉驪、『会話が弾む！基礎中国語』、白帝社、2024年12月

〈論文〉

・劉驪・董玉婷、「日本語母語話者のための中国語発音教材に関する研究—知覚能力と産出能力の向上を目指して」、『異文化コミュニケーション研究』、第17号、49-58、2025年3月

〈研究助成〉

・研究代表者：劉驪、日本学術振興会科学研究費助成事業、研究課題：「知覚能力と産出能力の向上を目的とした中国語発音教材の開発」、種目：基盤研究(C)、期間：2022年4月-2025年3月

〔その他の活動〕

〈管理運営〉

・言語文化研究科言語文化専攻内：人権問題委員会委員、キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員、紀要編集委員会委員

・コミュニケーション論講座内：人権委員会委員、FD委員会委員

・中国語部会内：紀要編集委員

〈学会活動〉

- ・日本中国語学会編集委員会委員
- ・日中対照言語学会理事、編集委員会委員、論文賞選考委員会委員長
- ・『現代中国語研究』編集委員会委員

〈研究・教育の基盤となるソフトウェア（アプリケーション）、データベース、コーパス等の開発〉

- ・知覚訓練に基づく中国語発音教材の開発（電子データ）<https://researchmap.jp/read0156449/works>

【第二言語教育学講座】

今尾 康裕 (IMAO Yasuhiro) 教授

<https://sites.google.com/site/casualconcj/>

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉応用言語学研究 A

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Project-based), 総合英語 (Academic Skills)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉テキスト分析ツール開発, 言語テスト, 英語教育, 英語アカデミックライティング

〈所属学会〉日本言語テスト学会, 外国語教育メディア学会, 英語コーパス学会

〔研究業績〕

〈アプリケーション開発〉

- ・CasualConc 4.0 (テキスト分析ツール) およびマニュアル
- ・CasualTranscriber 3.0 (文字おこし補助ツール) およびマニュアル

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「CasualTranscriber と CasualConc を使った簡易音声付きコーパスの作り方」外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部メソドロロジー研究部会 2024 年度第 3 回研究会, 北海学園大学, 2025 年 3 月 8 日

〈研究助成〉

・高機能テキスト分析アプリケーションの進化とタブレット端末への展開 (科学研究補助金・基盤研究 C, 研究代表者, 2024-2028 年度)

・Testing and teaching second language pragmatic skills for studying abroad (科学研究補助金・基盤研究 B, 研究分担者, 2020-2024 年度)

〔その他の活動〕

〈学会活動〉Asian Association for Language Assessment, コミュニケーション担当理事, 外国語教育メディア学会関西支部運営委員, 英語コーパス学会学会賞選考委員

岩居 弘樹 (IWAI Hiroki) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉第二言語教育実践研究 A・B、第二言語教育学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習 (ドイツ語)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉ICT を活用した外国語教授法, 複言語学習, 教育工学

〈所属学会〉日本外国語教育推進機構, 日本教育工学会, 外国語教育メディア学会, 日本デジタル教科書学会, 日本独文学会, 日本独文学会ドイツ語教育部会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・岩居弘樹, 「ビデオ撮影を中心にした初修ドイツ語授業と非同期型ビデオ交流」, 『コンピュータ&エデュケーション 57』, pp.54-59, 2024 年 12 月
- ・岩居弘樹, 「Web サービスに埋め込まれた生成 AI で教材を作る」, 『サイバーメディア・フォーラム 25』, pp.21-25, 2024 年 9 月
- ・岩居弘樹, 大前智美, 「小学生向け複言語学習「世界の言葉プロジェクト」—6 年間の取り組みと今後の課題—」, 『複言語・多言語教育研究』, No.12, pp.3-19, 2025 年 3 月
〈研究発表・講演・学会報告〉
- ・岩居弘樹, 大前智美, 「小学校向け複言語学習の実践と運営上の課題」, 第 63 回外国語教育メディア学会全国研究大会, 2023 年 8 月 8 日
- ・大前智美, 岩居弘樹, 「複言語学習を支える留学生の言葉に対する意識の変容」, 第 63 回外国語教育メディア学会全国研究大会, 2023 年 8 月 8 日
- ・岩居弘樹, 大前智美, 「「世界の言葉プロジェクト」—学習成果ビデオから見た発音指導の課題—」, 2024 PC カンファレンス, 2024 年 8 月 18 日
- ・大前智美, 岩居弘樹, 「複言語学習のススメ—文字講座を通した音と文字の学び方—」, 2024 PC カンファレンス, 2024 年 8 月 18 日
- ・岩居弘樹, 大前智美, 岩根久, 「iPad Café in Hokkaido (ICT を活用した授業 Tips についてのワークショップ)」, 2024 年度 e-Learning 教育学会研究大会, 2024 年 8 月 26 日
- ・岩居弘樹, 「初修外国語学習のための非同期型ビデオ交流プロジェクト」, 日本教育工学会 2024 年秋季全国大会, 2024 年 9 月 8 日
- ・大前智美, 岩居弘樹, 「ThingLink を使ったインタラクティブコンテンツの可能性」, 日本教育工学会 2024 年秋季全国大会, 2024 年 9 月 8 日
- ・岩居弘樹, 「高校韓国語教員向けワークショップ」, 高等学校朝鮮語教育ネットワーク西ブロック, 2024 年 12 月 22 日
- ・岩居弘樹, 「小学校での複言語学習実践—留学生と子どもたちをつなぐ試み」, 言語教育エキスポ 2025, 2025 年 3 月 2 日
- ・岩居弘樹, 大前智美, 「大規模小学校での複言語学習—課題解決に向けた取り組み—」, 日本外国語教育推進機構 (JACTFL) 第 13 回シンポジウム, 2025 年 3 月 9 日
〈研究助成〉
- ・科研費基盤研究(C) VR 空間における「学び合いの場」の構築による外国語学習モデルの研究開発 (研究分担者)
[その他の活動]
- 〈管理運営〉サイバーメディアセンター副センター長 (9 月まで)
- 〈社会貢献活動〉
- ・「複言語学習のすすめ」@岡山市立芥子山小学校 2024 年 9 月~2025 年 1 月 (11 回)
- ・「複言語学習のすすめ」@備前市立吉永小学校 2024 年 9 月~2024 年 2 月 (3 回)
- ・「複言語学習のすすめ」@交野市教育委員会 2024 年 7 月 31 日
〈市民向け講座・講演〉
- ・市民講座「複言語学習のススメ」2024 年 9 月~2025 年 1 月 (6 回)

大谷 晋也 (OTANI Shinya) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語社会・文化研究 A・B

〈共通教育担当科目〉多文化コミュニケーション(日本語)、学問への扉(多文化コミュニケーションセミナー)、アドヴァンストセミナー、International Communication Seminar (Japanese)203

〈学部教育担当科目〉第二言語社会・文化研究 a・b

〈国際交流科目担当科目〉総合日本語 JA200、日本語・グローバル理解演習 (Japanese and Global Understanding)

600b・600e

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉多文化・グローバル教育としての異言語（日本語）教育、言語教育政策、外国人医療支援に関する諸問題、日本古典文学データベース

〈所属学会〉日本語教育学会

〔研究業績〕

〈編著〉（単独の編者によるもの）

・『教師とボランティアのための 日本語教育 実践 日本語Q&A』大谷晋也編著、大谷伊都子、楠木理香、柴田幸子、竹内茜、立川真紀絵、内藤裕美 共著、Kindle 版（書籍版の改訂版）、Kindle Direct Publishing、2025 年 3 月

〈書評・論評・紹介〉

・「モノやコトの価値とは何か」、『アクトス』第 17 巻第 1 号、大谷晋也、大和評論社、2025 年 2 月

〔その他の活動〕

〈管理運営〉国際教育交流センター教授会構成員（専任）、国際教育交流センター財務委員長、マルチリンガル教育センター運営委員会委員、同カリキュラム委員会委員、マチカネにほんご交流会・竹の子にほんご交流会担当教員

〈社会貢献活動〉医療事務連絡会（箕面市等）委員、みのお外国人医療サポートネット運営委員、NPO 法人みのお外国人医療サポートネット監事（2024 年 12 月より）

大前 智美 (OMAE Tomomi) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉第二言語教育実践研究 A・B

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習（ドイツ語）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉外国語教育、ICT 支援外国語教育・学習、複言語学習

〈所属学会〉日本独文学会ドイツ語教育部会、e-Learning 教育学会、外国語メディア教育学会、コンピュータ利用教育学会、日本外国語教育推進機構

〔研究業績〕

〈論文〉

・杉江聡子、大前智美、「ICT とマルチメディア表現を活用した人文学教育のデザイン：初心者からの成長と質的な学習評価の視点から」、『教育システム情報学会 2024 年度第 2 回研究会 要項』、p.1-8、2024 年 7 月

・大前智美、岩居弘樹、「複言語学習を支える留学生の言葉に対する意識の変容」、『外国語教育メディア学会 第 63 回全国研究大会 要項』、p.111-112、2024 年 8 月

・岩居弘樹、大前智美、「小学校向け複言語学習の実践と運営上の課題」、『外国語教育メディア学会 第 63 回全国研究大会要項』、p.109-110、2024 年 8 月

・大前智美、岩居弘樹、「複言語学習のススメ —文字講座を通じた音と文字の学び方—」、『2024 PC カンファレンス論文集』、p.240-242、2024 年 8 月発行

・岩居弘樹、大前智美、「「世界の言葉プロジェクト」—学習成果ビデオから見た発音指導の課題—」、『2024 PC カンファレンス論文集』、p.236-239、2024 年 8 月発行

・大前智美、岩居弘樹、「ThingLink を使ったインタラクティブコンテンツの可能性」、『日本教育工学会 2024 年秋季全国大会 論文集』、p.699-700、2024 年 9 月発行

・岩居弘樹、大前智美、「初修外国語学習のための非同期型ビデオ交流プロジェクト」、『日本教育工学会 2024 年秋季全国大会 論文集』、p.701-702、2024 年 9 月発行

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・杉江聡子, 大前智美, 「ICT とマルチメディア表現を活用した人文学教育のデザイン：初心者からの成長と質的な学習評価の視点から」, 『教育システム情報学会 2024 年度第 2 回研究会 要項』, 2024 年 7 月 21 日
- ・大前智美, 岩居弘樹, 「複言語学習を支える留学生の言葉に対する意識の変容」, 外国語教育メディア学会 第 63 回全国研究大会, 2024 年 8 月 8 日
- ・岩居弘樹, 大前智美, 「小学校向け複言語学習の実践と運営上の課題」, 外国語教育メディア学会 第 63 回全国研究大会, 2024 年 8 月 8 日
- ・大前智美, 岩居弘樹, 「複言語学習のススメ —文字講座を通した音と文字の学び方—」, 2024PC カンファレンス, 2024 年 8 月 18 日
- ・岩居弘樹, 大前智美, 「「世界の言葉プロジェクト」—学習成果ビデオから見た発音指導の課題—」, 2024PC カンファレンス, 2024 年 8 月 18 日
- ・岩居弘樹, 岩根久, 大前智美, 「iPad Café in Hokkaido」, 2024 年度 e-Learning 教育学会 第 23 回研究大会, 2024 年 8 月 26 日
- ・大前智美, 岩居弘樹, 「ThingLink を使ったインタラクティブコンテンツの可能性」, 日本教育工学会 2024 年秋季全国大会, 2024 年 9 月
- ・岩居弘樹, 大前智美, 「初修外国語学習のための非同期型ビデオ交流プロジェクト」, 日本教育工学会 2024 年秋季全国大会, 2024 年 9 月
- ・岩居弘樹, 大前智美, 「大規模小学校での複言語学習—課題解決に向けた取り組み—」, JACTFL 第 13 回シンポジウム, 2025 年 3 月 9 日
- 〈研究助成〉
- ・基盤研究 C, 「VR 空間における「学び合いの場」の構築による外国語学習モデルの研究開発」(課題番号 22K00682), 2022 年～2024 年
- ・基盤研究 C, 「VR を使った外国語教育と教材の開発」(課題番号 22K00703), 研究分担者, 2022 年～2024 年
- 〈主たる実施者となって開催した学会〉
- ・2024 年度 e-Learning 教育学会研究大会, 2024 年 8 月 26 日, 北海道大学
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉D3 センター PLS
- 〈学会活動〉e-Learning 教育学会 会長、外国語教育メディア学会関西支部 運営委員
- 〈社会貢献活動〉複言語学習のすすめ 岡山市立芥子山小学校
- 〈市民向け講座・講演〉市民講座 2024 複言語学習のススメ

岡田 悠佑 (OKADA Yusuke) 准教授

<https://sites.google.com/site/liloarise2690/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉応用言語学研究A、第二言語研究法B、第二言語教育学特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Project-based English), 総合英語 (Liberal Arts & Science)

[研究活動]

〈研究テーマ〉会話分析、第二言語語用論

〈所属学会〉大学英語教育学会、言語文化教育研究学会

[研究業績]

〈論文〉

・岡田悠佑 (2024). 「「放置されている」ことを示すこと : TikTok を巡る米公聴会の会話分析」『応用会話分析研究 2023: 政治経済が以降の相互行為実践 (言語文化研究科共同プロジェクト 2023)』 1-10.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・岡田悠佑 (2025 年 2 月)「対照化による抵抗の無効化：TikTok CEO に対する公聴会の場面意味論」放送文化基金助成公開シンポジウム「政治・経済・外交の相互行為実践—アメリカ議会公聴会の会話分析」
- ・岡田悠佑 (2024 年 12 月)「フィードバック連鎖における定式化を通じた TA の役割とアイデンティティの確立」第 6 回 JAAL in JACET (日本応用言語学会) 学術交流集会
- ・岡田悠佑 (2024 年 11 月)「会話分析による第二言語研究入門」立命館大学大学院言語教育情報研究科「日本語教育学 10 (日本語を対象とした語用論と談話分析)」特別講義
- ・Okada, Y. (2024, June). "Using "lack of visual resources" for social and pedagogical word search in online video group discussions in EFL classrooms" Paper presented at Sociolinguistic Symposium 25.
- 〈研究助成〉
- ・放送文化基金助成 2023 (人文社会・文化)「米公聴会とそのニュース報道の談話分析による事実検証手法の考察」
- ・科研費基盤 C「アクティブ・ラーニング型大学英語授業における TA の授業参加法のモデル化」
- [その他の活動]
- 〈学会活動〉JACET (大学英語教育学会) 会話分析研究会代表

金澤 佑 (KANAZAWA Yu) 講師

<https://researchmap.jp/ku-kanazawa/goldstream>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語教育実践研究

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Content-based English)、英語選択 (Elective English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉情動、語彙・定型表現学習、認知心理学、アクティブラーニング (理論的・学際的・実践的探究)

〈所属学会〉外国語教育メディア学会 (LET)、LET 関西支部基礎理論研究部会 (LET-FMT-SIG)、日本哲学プラクティス学会 (JSPP)、全国語学教育学会 (JALT)、JALT CALL SIG、日本感情心理学会 (JSRE)、イギリス応用言語学会 (British Association for Applied Linguistics [BAAL])、国際言語学習心理学会 (The International Association of the Psychology of Language Learning [IAPLL])、大学英語教育学会 (JACET)、全国英語教育学会 (JASELE)、関西英語教育学会 (KELES)、日本第二言語習得学会 (J-SLA)、ことばの科学会 (JSSS)、国際応用言語学会 (Association Internationale de Linguistique Appliquee [AILA])、日本自律学習学会 (JASAL)、日本多読学会 (JERA)、日本ケースセンター、The Case Centre、Harvard Business Publishing Education Teaching Center、日本質的心理学会 (JAQP)、Society for Affective Science (SAS)

[研究業績]

〈編著〉

・金澤 佑 (2024). 「語彙学習のメカニズム」川崎 真理子、中西 弘、西村 浩子、三木 浩平 (編)『第二言語習得研究が解き明かす外国語の学習』(pp. 63-77) くろしお出版.

〈論文〉

・Kanazawa, Y. (2024). Lexical and contextual emotional valence in foreign language vocabulary retention: An experimental study and the Deep Epistemic Emotion Hypothesis. *The Mental Lexicon*. Advance online publication.

・Kanazawa, Y. (2024). Jenseits von positive Psychologie: Philosophische Einsichten zur Vermeidung möglicher Gefahren einer vulgarisierten Anerkennung positiver Emotion (A. Cotten, Trans. into German). In A. Cotten, S. Huber, & G. Sulzenbacher (Eds.), *Triädere #28: Negativ/Positiv/Glamour* (pp. 15–24). Sonderzahl.

・金澤 佑 (2024) 「エモーショナル・エピステミシティ —情動の次元の一つとしてのエピステミック (認識情動)—」『感情心理学研究』32(Supplement), OS15-01.

・Lafleur, L., & Kanazawa, Y. (2024). The effects of interleaved spaced repetition learning on vocabulary knowledge. *Computer-Assisted Language Learning Electronic Journal (CALL-EJ)*, 25(3), 172-194.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・金澤 佑 (2024 年 5 月 25 日). [基調講演] 21 世紀型スキルを伸ばすディープでアクティブな技能統合型授業. 外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部 2024 年春季研究大会. 外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部、甲南女子大学、神戸、日本
- ・金澤 佑 (2024 年 5 月 26 日). 多読教材の情動性とエンゲージメント [研究発表]. 金澤 佑 (ホスト), Emotion Day №3 : 情動的要因と英語教育, 外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部 基礎理論研究部会. オンライン.
- ・Kanazawa, Y. (2024, May 16). Theoretical inquiry into active inference for the psychology of language learning [Paper presentation]. Psychology of Language Learning PLL5 2024 Conference, Madrid, Spain.
- ・金澤 佑 (2024 年 6 月 2 日). エモーショナル・エピステミシティ —情動の次元の一つとしてのエピステミック (認識) 情動—. 日本感情心理学会第 32 回大会、大阪、日本.
- ・Kanazawa, Y. (2024, June 22-23). Emotion and second language retentional cognition. In S. Kadota (chair), The Cognitive, Social, and Emotional Systems Underlying Second Language Acquisition: Integrating Three Brain Networks. [Invited symposium]. The 24th International Annual Conference of the Japan Second Language Acquisition (J-SLA2024), Osaka, Japan.
- ・金澤 佑 (2024). 「日本人英語学習者」を再考する : 意図しない差別や解釈上の混乱を回避するために 『全国英語教育学会第 49 回福岡研究大会予稿集』 6-7.
- ・Kanazawa, Y. (2024, August 29). Emotional valence and arousal of the lexical items in the E-NAWL database: Replication and extension [Conference presentation]. The 63rd JACET International Convention (JACET2024), Aichi University, Nagoya Campus, Nagoya, Japan.
- ・Kamenická, J., & Kanazawa, Y. (2024, September 5). A new era of brain-based TEFL [Conference presentation]. Second Language Teacher Education: Inspiring Creativity, Cultivating Excellence (SLTED 2024) Conference, Masaryk University, Faculty of Arts, Brno, Czechia.
- ・Kanazawa, Y., & Kamenická, J. (2024, September 6). Theoretical and pedagogical prescriptions for better English language education in Japan [Conference presentation]. Second Language Teacher Education: Inspiring Creativity, Cultivating Excellence (SLTED 2024) Conference, Masaryk University, Faculty of Arts, Brno, Czechia.
- ・Kanazawa, Y. (2024, September 9). Emotion-Involved Processing and Foreign Language Learning [Invited lecture]. Fakulta humanitních studií - Univerzita Tomáše Bati ve Zlíně, Czechia.
- ・Otake, S., & Kanazawa, Y. (2024, September 23). Enhancing English instruction and experimentation using PsyToolkit. In Kanazawa, Y. (Host), Linguistics, Psychology, & English Education [Public event]. LET-FMT-SIG. Online.
- ・Kanazawa, Y. (2024, October 26). Epistemic emotion-inducing deep active learning: Theories and practical ideas [Plenary lecture]. The 7th Annual Professional Development Conference of KGU-SPS-ELP. Sanda, Hyogo, Japan.
- ・金澤 佑 (2024 年 9 月 29 日). 批判的応用言語学と批判的英語教育哲学対話 (Critical applied linguistics (CALx) and Critical P4ELT) [研究発表]. 日本哲学プラクティス学会第 5 回大会, 長野県立大学三輪キャンパス+オンライン、長野、日本.
- ・Kanazawa, Y., & Otake, S. (2024, October 26). Effects of emotionality of AI-generated pictures on foreign language vocabulary learning [Conference presentation]. The 2nd Annual ELINET Conference: Global Voices, Local Impact – Education, Language, and Diversity, UFPA Bragança, Brazil/Online.
- ・Kanazawa, Y., & Otake, S. (2024, December 7). Exploring the impact of emotional reactions on vocabulary learning: Experimental challenges and future directions [Paper presentation]. JAAL in JACET 2024 Conference, Kyoto, Japan.
- ・ラクシャンドル・マハブーベ, 陳 麗蘭, 金澤 佑. (2025 年 2 月 28 日). 日本の博士課程における学術論文発表 : トリオエスノグラフィによる分析 [研究発表]. オートエスノグラフィとナラティブに関する国際シンポジウム 2025 ISAN 日本語セッション, オンライン.
- ・Kanazawa, Y. (2025, March 15). Active Inference GuestStream ~ Yu Kanazawa (金澤 佑) : The free energy principle, language learning, and education [YouTube Live Invited Talk]. Active Inference Institute. <https://youtu.be/BN2akPkfNxA>
- ・Kanazawa, Y., & Otake, S. (2025, March 22). Dimensional approach to epistemic emotions [Poster presentation]. Society for Affective Science (SAS) 2025 Conference, Portland, OR.

・ Otake, S., & Kanazawa, Y. (2025, March 22). How does different emotional prosody affect foreign language vocabulary acquisition? The case of epistemic, neutral, and positive emotions [Poster presentation]. Society for Affective Science (SAS) 2025 Conference, Portland, OR.

・ Kanazawa, Y. (2025, March 31). Three Hypotheses on Micro-Level Emotions in Foreign Language Retention. In Wakabayashi S. (Host), Public lectures on Emotion [Public event]. Institute of Cultural Sciences, Chuo University, LET-FMT-SIG, Workshop Initiatives for Language Learning (WILL), JP22K00806. Chuo University Tama Campus.

〈研究助成〉

・ Epistemic Emotions in Foreign Language Learning: Psychological Investigation and Pedagogical Inquiry (日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) : JP22K00806) 研究代表者 (PI)

〈国際共同研究実施状況〉

・ Emotion-Involved Processing in Language Learning、共同研究者 (チェコのウースチー・ナド・ラベムにあるヤン・エヴァンゲリスタ・プルキニェ大学所属のヤナ・カメニツカ先生との共同研究の推進)

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・ 外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (情動的要因と英語教育 : Emotion Day №3)、5月26日、Zoom

・ 外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (AI Day)、7月14日、Zoom

・ 外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (言語学・心理学・英語教育)、9月23日、Zoom

・ 外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (語彙学習 : ボキャブラリー・デー №3)、11月17日、Zoom

・ 外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (モチベーション・デー)、1月18日、Zoom

・ 外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (エモーション・デー №4)、3月31日、東京 & Zoom

〔その他の活動〕

〈管理運営〉 人権問題委員、キャンパス・ハラスメント問題検討委員、英語部会会計委員、図書委員

〈学会活動〉 外国語教育メディア学会 (LET) 本部 編集委員、外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部 運営委員、大学英語教育学会 (JACET) 関西支部 紀要編集委員、外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会 (LET-FMT-SIG) 部会長、外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会 (LET-FMT-SIG) プロジェクトリーダー、日本哲学プラクティス学会 編集委員

〈社会貢献活動〉

ことばの科学研究 査読員、Frontiers in Psychology 査読員、TESOL Quarterly 査読員、大阪府立北野高等学校 課題研究最終発表会 助言者、放送大学大阪学習センター 面接授業講師 (アクティブラーニング英会話)、Judge for the Storytelling Competition, part of the Apresiasi Prestasi dan Seni (APSI) 2024 event. Hosted by the Indonesian Consulate, Tawau, Malaysia.

Kim Miso (KIM Miso) 講師

<https://scholar.google.com/citations?user=v87fgWUAAAAJ&hl=en>

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Academic skills)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 トランスランゲージング、言語イデオロギー、言語講師アイデンティティ、協力的オートエスノグラフィー、質的研究方法論

〈所属学会〉 American Association of Applied Linguistics, The Japan Association for Language Teaching

〔研究業績〕

〈編著〉

- ・ Jinmin Lee, Sungran Ha, Jungyeon Back, & Miso Kim. What's the Use of Studying in Life?, Jumpingbooks, 2025/03 (Korean)

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ Kim, Miso. (2025, March). From marginalization to pedagogy: Autoethnography and translanguaging identity-as-pedagogy for minority teachers. Roundtable presentation at the 2025 American Association of Applied Linguistics, Denver, Colorado.
- ・ Kim, Miso. (2024, November). “Me-search” for professional development. Paper presented at JALT 2024, Shizuoka, Japan.
- ・ Kim, Miso. (2024, October). Translanguaging and diversity: Creating a classroom for all. Plenary speech at the 26th International Conference of the Korean Language Education Research Institute, Seoul, Korea.
- ・ Kim, Miso. (2024, May). “Where did all the schoolgirls go?”: Intersections of neoliberalism and gender in English-language learning. Paper presented at the PanSIG 2024 Conference, Fukui, Japan.

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費助成事業（若手研究）Fostering English communicative competence through translanguaging to promote diversity, equity, and Inclusion. (23K12242).

〔その他の活動〕

〈管理運営〉

〈学会活動〉 AsiaTEFL Publicity officer

〈社会貢献活動〉

〈市民向け講座・講演〉

- ・ Kim, Miso. (2025, February). Constructing my identity through language learning. Invited lecture at Takeroot, Sunnyvale, CA (Online) (Korean).
- ・ Kim, Miso. (2025, February). Carving out a third way as a researcher. Invited lecture at Jidda, Seoul, Korea (Korean).
- ・ Kim, Miso. (2024, August). Doing and publishing (collaborative) autoethnography. Invited lecture at CATS Lab, Seoul, Korea (Korean).

中俣 尚己 (NAKAMATA Naoki) 准教授

<http://nakamata.info/>

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 応用言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合日本語 JA300、日本語・グローバル理解演習 JGU500(c)・(f)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 計量言語学および日本語教育への応用

〈所属学会〉 関西言語学会、日本語文法学会、日本語学会、中国語話者のための日本語教育研究会、日本語教育学会、第二言語習得研究会、社会言語科学会、計量国語学会、日本語/日本語教育研究会、言語処理学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・ 中俣尚己「雑談の Can-Do 化を目指した話題の類型の分析—「食べること」を例として—」 斎藤倫明・修徳健編『談話・文章・テキストの一まとまり性』 和泉書院、2024 年 5 月
- ・ 中俣尚己・清水由貴子「協働で作る文法コロケーションハンドブック：コーパスの授業成果を発信する」『文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集』29、2025 年 3 月
- 〈書評・論評・紹介〉
- ・ 中俣尚己、新刊ピックアップ「話題別コーパスが拓く日本語教育と日本語学」『日本語学』43(3)、2024 年 6 月
- ・ 中俣尚己、「品詞と語彙」、金水敏(編)『よくわかる日本語学』ミネルヴァ書房、2024 年 7 月
- ・ 中俣尚己、2022 年・2023 年における日本語学界の展望 文法（理論・現代）、『日本語の研究』20(2)、2024 年

8月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Naoki NAKAMATA, Atsuh MORI, Yukiko OKUNO, 'Extraction of Topic-Specific Words, Phrases and Can-dos from Japanese Topic Oriented Conversation Corpus (J-TOCC)'、AILA2024、2024年8月15日

・ 中俣尚己、「学会報告：AILA2024」、日本語教育よもやま話の会、2024年8月25日

・ 中俣尚己、講演「話題から始まる日本語教育を考える」中国語話者のための日本語教育研究会 第56回研究会、2024年9月21日

・ 中俣尚己、特別企画：学びの奇跡「ないものを作る」、日本語／日本語教育研究会第16回大会、2024年9月28日

・ 中俣尚己、建石始、清水由貴子、パネルセッション「『日本語話題別会話コーパス：J-TOCC』に見られる話題ごとの談話の型」、日本語教育学会2024年度秋季大会、2024年11月16日

・ 松下 達彦、岩下 智彦、新井 智大、ABUELLIL Nora、田中 祐輔、中俣 尚己、スルダノヴィッチ イレーナ、松田 真希子、劉 瑞利、陳 夢夏、柏野 和佳子、石黒 圭、橋本 直幸、小熊 利江「日本語教育のための初級語彙をどう定めるべきか」、「学習者辞書用語彙資源の構築」共同研究発表会 2024年11月24日

・ 中俣尚己、特別企画「日本語話題別会話コーパス J-TOCC の紹介と活用法」、第21回関西日本語研究会。2024年12月7日

・ 中俣尚己、「文法形式に基づいた日本語文体の多次元的抽出」日本語文法学会第25回大会、2024年12月16日

・ 中俣尚己、「話題別会話コーパスに対する文体分析—地域差・性差・話題差—」社会言語科学会第49回大会、2025年3月1日

・ 中俣尚己、講義「言葉を数えるとは？コーパスが明らかにする日本語の姿」「文法の授業に役立つ、文法コロケーションハンドブックの開発と展開」、SEMINARIO AIDL2025、2025年3月14日

〈研究助成〉

・ 研究代表者「「話題から始まる日本語教育」を支援する情報サイトの構築と話題別会話コーパスの拡充」(日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B))

・ 研究分担者「文章の語彙レベルの学習者適合度の判定方法の開発 —日本語教育・国語教育への応用—」(日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A)、研究代表者：松下達彦)

・ 研究分担者「聴解コーパスの構築による日本語学習者の聴解困難点と推測技術の実証的研究」(日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B)、研究代表者：野田尚史)

・ 研究分担者「外国人高校生の中退率7.4倍を改善する多言語対応版数学動画コンテンツの開発と普及」(日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究(萌芽)、研究代表者：黒田 恭史)

[その他の活動]

〈学会活動〉計量国語学会理事(編集補佐)、日本語教育学会評議員・学会誌委員(編集担当)・JCN 研修事業 基盤整備委員、日本語文法学会評議員、日本語学会「中高生日本語コンテスト」実行委員、中国語話者のための日本語教育研究会顧問・事務局(HP 担当)、日本語／日本語教育研究会学会誌委員、関西日本語研究会世話人

難波 康治 (NAMBA Koji) 准教授

<http://chiba2014.jimdo.com/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語実践研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合日本語、専門日本語

〈国際交流教育担当科目〉Japanese JA100

〈学部教育担当科目〉International Communication Seminar (Japanese) 103,

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本語教育における IT 利用、接触場面における話題マネジメント

〈所属学会〉日本語教育学会、社会言語科学会、日本デジタル教科書学会、韓国日本語文化学会、e-Learning 教育学会、日本音響学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・リアルタイムMRIを用いた韓国語首都圏方言話者による流音の調音音声学的検討—語頭および語中の母音間について—、韓喜善、難波康治、日本音響学会第153回(2025年春季)講演論文集(PDF)1-4、2025年3月
- ・VRを活用した新たなeラーニング中国語教材の開発—語学学習の未来像—、簡珮鈴、難波康治、Elton Su、2024 PCカンファレンス論文集、243-246 2024年8月

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・リアルタイムMRIを用いた韓国語首都圏方言話者による流音の調音音声学的検討—語頭および語中の母音間について—、韓喜善、難波康治、日本音響学会 第153回春季研究発表会、2025年3月18日
- ・VRを活用した新たなeラーニング中国語教材の開発—語学学習の未来像—、簡珮鈴、難波康治、Elton Su、2024PCカンファレンス 2024年8月18日

〈研究助成〉

- ・VRを用いた同期型遠隔授業による内容言語統合型異文化理解学習のデザイン、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)課題番号22K00697、2021年4月 - 2025年3月、研究分担者
- ・日本語の撥音の音声実態に関する総合的再検討、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 課題番号22K00529、2022年4月 - 2026年3月、研究分担者

〔その他の活動〕

〈管理運営〉

- ・教育情報化ワーキンググループ

〈学会活動〉

- ・韓国日本語文化学会海外理事

〈社会貢献活動〉

- ・公益信託井内留学生奨学基金 運営委員会委員
- ・井内奨学財団 評議員

西田 理恵子 (NISHIDA Rieko) 教授

<https://rienishi.jimdoweb.com/>

〔教育活動〕 〈研究科担当科目〉第二言語教育法A、応用言語学研究論B

〈共通教育担当科目〉総合英語(Content-based English)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉応用言語学研究(動機づけ、情意要因)、英語教育、方法論

〈所属学会〉大学英語教育学会、外国語教育メディア学会、全国英語教育学会、小学校英語教育学会、International Association for the Psychology of Language Learning (IAPLL)

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・西田理恵子・高木智記(2024). エンゲージメントと内発的動機づけの1学期間の変化. 廣森友人・和田玲(編)『エンゲージメントを促す英語授業—やる気と行動をつなぐ新しい動機づけ概念』大修館書店.(招待執筆)
 - ・西田理恵子(2024). 学習意欲減退要因と無動機に関する実証研究: 自己決定理論に基づいて. 応用言語学における理論と実践-研究と教育を通して-. 大阪大学大学院言語文化共同研究プロジェクト2023.
- 〈研究発表・講演・学会報告〉

・Nishida, R., McEown, M., McEown, K., & Ellinger, J. (2025). Investigations of engagement, and positive and negative emotions in L2/ L3 for Japanese University Students. The Asian Conference on Psychology and the Behavioural Sciences

(ACP2025). March 26-29, 2025. Online.

・ Nishida, R. (2025). "A comprehensive summary of Japanese junior high school students' engagement and positive and negative emotions". Psychology of Language Learning in Japan (PLLJ). March 8th, 2025. Osaka University. Online.

・ Nishida, R., Aoyama, T., Nakamura, S., Antoku, M., & Yamazaki, J. (2025). ". Psychology of Language Learning in Japan (PLLJ). Moderator. March 8th, 2025. Osaka University. Online.

・ McEown, K., Ellinger, J., McEown, M., Nishida, R. (2025). The Relationship Between Engagement and Burnout in the Native Language Context and English as a Foreign Language. The IAFOR International Conference on Education – Hawaii (IICE2025). Online.

・ McEown, M., Nishida, R., McEown, K., Ellinger, J. (2025). The Relationship Between Trait Emotional Intelligence, Academic Stress, Burnout, and Perceived Self Competence in Learning English and Languages Other Than English. The IAFOR International Conference on Education – Hawaii (IICE2025). Online.

・ Nishida, R. (2024). Exploring motivation, psychological needs, engagement and affective factors in CLIL in the Japanese context. Research Institute for Learner Autonomy Education (RILAE). Kanda University of International Studies. November 29. Featured Speaker. Online.

・ Nishida, R. (2024). Exploring motivated engagement, perceived communication competencies and L2WTC in English learning in the Japanese EFL context. Paper Presentation. The 21st AILA World Congress. Malaysia.

・ Nishida, R., & Takagi, T. (2024). Investigation of the inter-relationship between self-determination and demotivational factors for the Japanese junior high school students. Poster Presentation. The 21st AILA World Congress. Malaysia.

・ 西田理恵子・廣森友人・奥貫朋子 (2024-9). 「学習者エンゲージメントにおける理論：研究・実践」モデレータ－. 科学研究費助成金事業基盤研究C 特別講演会企画・動機づけ研究会. 大阪大学. Online.

・ 西田理恵子 (2024-9 月). 大学英語学習者におけるエンゲージメントと動機づけ：CLIL の教育実践を通して. 「学習者エンゲージメントにおける理論・研究・実践」科学研究費助成金事業基盤研究C 特別講演会企画・動機づけ研究会. 大阪大学. Online.

・ Nishida, R. (2024). Trajectories and cross-lagged relations between engagement and international posture for Japanese university students in CLIL. The 63rd JACET International Convention. Nagoya.

・ Nishida, R., Yashima, T., & Takagi, T. (2024). Engaging Japanese junior high school students in English learning: Perspectives from positive and negative emotions. Psychology of Language Learning (PLL5). Madrid, Spain.

〈研究助成〉

・ 2024 年 4 月～2027 年 3 月 (代表) 基盤研究(C)24K04105 「大学英語学習者における内容言語統合型学習に関する国際的志向性を基盤とした実証研究」

・ 2021 年度～2024 年度 (代表) 「中学校英語教育における学習者と教師の動機づけを高めるメカニズムに関する実証研究」科学研究費助成金 基盤研究 C (21K00759).

・ 2020 年度～2024 年度 (分担) 「Emotional intelligence as a mediator between positive and negative emotions and neuro-cognitive performance among Japanese EFL learners」科学研究費助成金 基盤研究 C (20K00761), マキユワン麻哉 (早稲田大学) (代表).

〈調査活動〉

・ 枚方市長尾中学校の協力のもと、中学校 1 年生から中学校 3 年生を対象に中学生のエンゲージメントと動機づけに関する調査を行っている。

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・ 2025 年 3 月 8 日 「Language teacher psychology: what it is, why it matters, what we still need to know」 Prof. Sarah Mercer (University of Graz). Special talk. 科学研究費助成金基盤研究C 特別企画.

・ 2025 年 3 月 8 日 「Psychology of Language Learning (PLLJ)」 Takumi Aoyama (Shinshu University), Sachiko Nakamura (Tamagawa University), Minato Antoku (Sophia University), Joseph Yamazaki (Florida State University), Rieko Nishida (Osaka University). 科学研究費助成金基盤研究C 特別企画.

・2024 年 11 月 16 日「Language Engagement : A Metamotivational Perspectives」Dr. Ali H. Al-Hoorie (Saudi TESOL Association) 科学研究費助成金基盤研究 C 特別企画

・2024 年 9 月 7 日「学習者エンゲージメントにおける理論：研究・実践」特別講演会企画。廣森友人氏（明治大学）奥貫朋子氏（明治大学大学院）西田理恵子（大阪大学）科学研究費助成金基盤研究 C 特別企画。

[その他の活動]

〈管理運営〉第二言語教育学講座 講座代表者・社会貢献検討委員会委員長・公開講座検討 WG・人文学研究科評価広報委員・外部評価 WG

〈学会活動〉The Barcelona Conference on Arts, Media & Culture (BAMC2025). 国際学会・査読員. Psychology of Language Learning (PLLJ) 主催・運営

〈社会貢献活動〉

・2025 年 1 月 25 日. 第 9 回箕面市イングリッシュエクспRESSIONコンテスト. 箕面市教育委員会. コンテスト共催.

・2024 年 8 月 26 日 大阪府立北野高等学校 研究発表会. 助言・指導.

西出 佳詩子 (NISHIDE Yoshiko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語教育方法論 A・B、人文学林人文学実務研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）Ⅰ～Ⅳ

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ語学習者の読みのストラテジー習得の実証的研究、ドイツ語授業における協働学習の実態と効果の実証的研究、学術ドイツ語と読み、ドイツにおけるドイツ語教育の諸相（主に読解と作文教育を中心に）、ドイツ語圏における *Leichte Sprache* の普及と需要の変遷、実用場面について

〈所属学会〉日本独文学会、日本独文学会ドイツ語教育部会、ドイツ文法理論研究会、阪神ドイツ文学会、大学英語教育部会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈翻訳・翻訳書〉

・NHK 街角ピアノ「ウィーン」映像字幕翻訳共訳（2024 年 11 月 30 日初回放送）

〈研究発表・講演・学会報告〉

・林明子・西出佳詩子「分析的な読みからテキスト産出者の意図を探るまで—専門分野につながる読みのストラテジー習得を目指して」第 15 回日本独文学会関東支部研究発表会（2024 年 11 月 24 日 於：早稲田大学）

・西出佳詩子（2024）「ドイツ語授業における能動的学修—動画作成を取り入れた授業実践を例に」『ドイツ文学論攷』66 号 82-83 頁

〈調査活動〉

・調査活動のテーマ「分析的な読みからテキスト産出者の意図を探る」：2024 年度春夏学期「ドイツ語中級」受講者による自由記述式のコメントシートを分析対象に読みのストラテジーの習得状況を調査し、分析結果の一を上述の第 15 回日本独文学会関東支部研究発表会で発表した。

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科言語文化学専攻研究企画推進委員、設備・施設マネジメント委員、言語文化研究科言語文化学専攻ドイツ語部会図書・会計委員、人文学林共通教育部門インターンシップチーム

〈学会活動〉阪神ドイツ文学会編集委員

〈社会貢献活動〉Goethe Zertifikat A1, A2 試験官として試験実施協力

Barcat Corentin (BARCAT Corentin) 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉フランス語初級Ⅰ・Ⅱ、国際コミュニケーション演習（フランス語）、フランス語中級、フランス語言語文化演習（中級継続）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉言語学、フランス語学、話し言葉コーパス、学習者コーパス、社会言語学、音韻論、

〈所属学会〉日本ロマンス語学会、外国語教育学会、日本フランス語学会

〔研究業績〕

〈編著〉（複数の編者によるもの）ADAMI Sylvain・BARCAT Corentin・CAJOT Kévin・Havet Helline・DE LENCQUESAING Marion、*Le bruit des mots*、出版：青山学院大学 フランス語文学科、2025年3月。

〈研究発表・講演・学会報告〉

・フランス語の談話標識の *hein*：異なる発話状況での頻度と機能の比較、外国語教育学会 第28回大会、2024年11月9日。

・La réalisation de la particule *ne/n'* en français parlé. Étude de 5 corpus de natifs et d'un corpus d'apprenants japonophones.、第93回大阪大学フランス語フランス文学研究会、9月28日。

Lee Shzh-Chen Nancy (LEE SHZH-CHEN Nancy) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉

〈共通教育担当科目〉

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉英語スピーキング能力発達、スピーキング自己効力感、教員自己効力感、L2及びL3習得に関する研究

〈所属学会〉大学英語教育学会、全国語学教育学会、大阪大学言語文化学会

〔研究業績〕

〈論文〉

・Lee, S. C. N. (2024). Peer evaluation of English speaking communicative adequacy. JALT Okinawa Proceeding.

・Lee, N. S. C. (2024). Form-focused Instruction in Task-Based Language Teaching 『言語文化共同プロジェクト 2023 応用言語学における理論と実践 – 研究と教育を通して』, pp. 6-13. 大阪大学言語文化研究科.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・Lee, N. S. C. (2024, Oct). Learner intuitive assessment of EFL speaking communicative adequacy. Okinawa JALT. Okinawa.

・Lin, Z., & Lee, N. S. C. (2024, Oct). Navigating trilingual communication in Japan: A case study of small talk between a non-Japanese mother and her baby. Okinawa JALT. Okinawa.

・Lee, N. S. C. (2025, March). Evaluating EFL speaking communicative adequacy: Learners' perspectives. ACIE Conference. Osaka.

・Morén, A., Ekestorm, O., Atkins, A., Kawabata, E., & Lee, N. S. C. (2025, March). Comparing the effects of AI and machine translation feedback on ESL writing. ACIE Conference. Osaka.

〈研究助成〉

・日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C) 課題番号 21K00786 「Evaluating communicative adequacy in English speaking – development and validation of rater evaluation rubric」2021年度～2025年度（研究代表者）

〔その他の活動〕

〈学会活動〉

National Conference abstract reviewer

【理論言語学・デジタルヒューマニティーズ講座】

越智 正男 (OCHI Masao) 教授

<https://sites.google.com/site/masaoochi>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学 A・B (統語論)、理論言語学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、総合英語 (Content-based English)、学問への扉

[研究活動]

〈研究テーマ〉格の交替現象, 名詞句の統語構造、wh 構文

〈所属学会〉日本言語学会、日本英語学会、関西言語学会

[研究業績]

〈論文〉

- Ochi, Masao and Yuta Tatsumi (2024) "Numeral Classifiers in Japanese and (Anti-)Labeling," *Proceedings of the 14th Generative Linguistics in The Old World in Asia (GLOW in Asia XIV)*, 245–258, The Chinese University of Hong Kong.
- 越智正男 (2024) 「日本語と中国語の複数形態素と類別詞の統語的制約についての考察」『言語文化共同プロジェクト 2023 自然言語への理論的アプローチ』, 1-10. 大阪大学人文学研究科言語文化学専攻.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- Ochi, Masao (2024) Labeling theory and plural markers in Japanese and Chinese. Paper presented at Comparative Syntax, Semantics and Language Acquisition (#3), July 6, 2024, Center for Linguistics, Nanzan University.
- Ochi, Masao (2024) On the Syntax of Associative Plural Markers in Chinese and Japanese. Paper presented at 2024 Western Conference on Linguistics (WECOL2024), November 16, 2024, California State University, Fresno (via Zoom).
- Brian Agbayani and Masao Ochi (2025) *Tough* constructions in Japanese and the Complex XP Constraint. Poster presented at The Workshop on Theoretical East Asian Linguistics 14 (TEAL-14), March 19, 2025, University of Southern California.

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究代表者: 「名詞句の構造と一致現象に関する比較統語論研究」日本学術振興会 (令和 2 年 4 月 ~ 令和 7 年 3 月)
- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究代表者: 「生成文法におけるラベリング理論に基づく名詞項構造の統語研究」日本学術振興会 (令和 6 年 4 月 ~)

〈国際共同研究実施状況〉

- 日本学術振興会研究拠点形成事業「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」、分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉(学内) 教育課程委員会委員、(CME) カリキュラム委員会委員長 (2024 年 10 月~2025 年 3 月)

〈学会活動〉関西言語学会編集委員会委員長 (2024 年 4 月 ~)、Journal of East Asian Linguistics Editorial Board (2021 年 1 月 ~)、日本言語学会評議員 (2021 年 4 月 ~)

杉本 侑嗣 (SUGIMOTO Yushi) 講師

<https://yushisg.github.io/>

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉計算神経言語学、言語の計算認知神経科学

〈所属学会〉言語処理学会、Society for the Neurobiology of Language

[研究業績]

〈論文〉

- 磯野 真之介*, 梶川 康平*, 杉本 侑嗣*, 浅原 正幸, 大関 洋平. 2025. CCG による日本語脳波データのモデリ

ング. 言語処理学会年次大会発表論文集(Web) 31th 2025 年 3 月 *[共同第一著者]

・ 杉本 侑嗣, 吉田 遼, 鄭 嬌婷, 菅野 章剛, 小泉 政利, 大関 洋平. 2025. BCCWJ-MEG : 日本語脳磁図データの構築. 言語処理学会年次大会発表論文集(Web) 31th 2025 年 3 月

・ 吉田 遼, 磯野 真之介, 梶川 康平, 染谷 大河, 杉本 侑嗣, 大関 洋平. 2025. アテンションが記憶想起の認知モデルたりうるならば、記憶の表現としては何が妥当か? 言語処理学会年次大会発表論文集(Web) 31th 2025 年 3 月

・ 大宗純, 杉本侑嗣. 2024. ボックス理論. 石井透, 後藤亘, 小町将之, 宗像孝 (編)

「極小主義における説明理論の挑戦— 最適最小性が導く併合とコピー演算 —」, pp93-98. 開拓社

・ アンドレアス・ブリュメル, 後藤亘, 杉本侑嗣. 「ボックス理論における残部移動」石井透, 後藤亘, 小町将之, 宗像孝 (編) 「極小主義における説明理論の挑戦— 最適最小性が導く併合とコピー演算 —」, pp280-296. 開拓社

・ Blümel, Andreas., Nobu Goto, and Yushi Sugimoto. 2024. When the Grammar doesn't Mind Which Merge it Chooses. Proceedings of the 39th West Coast Conference on Formal Linguistics, 61-70. ed., Robert Autry, Gabriela de la Cruz, Luis A. Irizarry Figueroa, Kristina Mihajlovic, Tianyi Ni, Ryan Smith, and Heidi Harley, 61-70. Somerville, MA: Cascadia Proceedings Project.

・ Taiga Someya, Yushi Sugimoto, and Yohei Oseki. 2024. JCoLA: Japanese Corpus of Linguistic Acceptability. In Ed., Nicoletta Calzolari, Min-Yen Kan, Veronique Hoste, Alessandro Lenci, Sakriani Sakti, and Nianwen Xue, Proceedings of the Joint International Conference on Computational Linguistics, Language Resources and Evaluation (LREC-COLING) Long Paper 9477-9488. Torino, Italia: ELRA and ICCL. <https://aclanthology.org/2024.lrec-main.828/>

・ Yushi Sugimoto, Ryo Yoshida, Hyeonjeong Jeong, Masatoshi Koizumi, Jonathan R. Brennan, Yohei Oseki; Localizing Syntactic Composition with Left-Corner Recurrent Neural Network Grammars. Neurobiology of Language 2024; 5 (1): 201–224. doi: https://doi.org/10.1162/nol_a_00118

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ 磯野 真之介*, 梶川 康平*, 杉本 侑嗣*, 浅原 正幸, 大関 洋平. 2025. CCG による日本語脳波データのモデリング. 言語処理学会第 31 回年次大会 (NLP2025) 2025 年 3 月 13 日 *[共同第一著者]

・ 杉本 侑嗣, 吉田 遼, 鄭 嬌婷, 菅野 章剛, 小泉 政利, 大関 洋平. 2025. BCCWJ-MEG : 日本語脳磁図データの構築. 言語処理学会第 31 回年次大会 (NLP2025) 2025 年 3 月 12 日、ポスター発表

・ 吉田 遼, 磯野 真之介, 梶川 康平, 染谷 大河, 杉本 侑嗣, 大関 洋平. 2025. アテンションが記憶想起の認知モデルたりうるならば、記憶の表現としては何が妥当か? 言語処理学会第 31 回年次大会 (NLP2025) 2025 年 3 月 11 日

・ Yushi Sugimoto, Ryo Yoshida, Hyeonjeong Jeong, Akitake Kanno, Masatoshi Koizumi, Yohei Oseki. 2024. Investigating syntactic attention in the brain. The 16th Annual Meeting of Society for the Neurobiology of Language, October 25th, 2024.

・ Yushi Sugimoto. 2024. Boxing and Remnant Movement. 2024 SMOG & ANU International Conference on Syntax and Semantics (ICSS2024) August 20th, 2024. [invited, online]

鈴木 大介 (SUZUKI Daisuke) 講師

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 史的言語研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 英語副詞における形式と機能の関係、英語語法文法、英語史

〈所属学会〉 英語コーパス学会、英語語法文法学会、英語史研究会、大阪大学言語文化学会、関西言語学会、京大英文学会、近代英語協会、日本英語学会、日本英文学会、日本言語学会、日本語用論学会

〔研究業績〕

〈研究助成〉

・ 「英語副詞の形式と機能に関する共時的・通時的研究」日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 (研

究代表者) 課題番号: 22K13140

[その他の活動]

〈管理運営〉安全衛生委員会委員、大学院教務委員会委員

〈学会活動〉日本英文学会関西支部編集委員

〈社会貢献活動〉放送大学大阪学習センター非常勤講師

田畑 智司 (Tabata, Tomoji) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tabata/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉デジタルヒューマニティーズ (テキスト分析論) A/B, デジタルヒューマニティーズ特別研究

〈共通教育担当科目〉総合英語(Content-Based)

〈学部教育担当科目〉デジタルヒューマニティーズ a/b, 学問への扉 (マチカネゼミ) 「ことばと文化のデータサイエンス: デジタルヒューマニティーズへの扉」

[研究活動]

〈研究テーマ〉Digital Humanities (デジタルヒューマニティーズ), Stylometry, Authorship Attribution, 機械学習を応用した近・現代英語散文の文体研究, Forensic Analysis of Texts

〈所属学会〉The Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO), The European Association for Digital Humanities (EADH), Association for Computers and the Humanities (ACH), Canadian Society for Digital Humanities / Société canadienne des humanités numériques (CSDH/SCHN), Australasian Association for Digital Humanities (aadH), Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会), The Poetics and Linguistics Association (PALA), Dickens Fellowship, Dickens Society, 英語コーパス学会, 情報処理学会人文学とコンピュータ研究会(SIG-CH)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・ 田畑 智司 編『テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ 2023』(大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻 言語文化共同研究プロジェクト 2023 成果報告書) 2024 年.

〈論文〉

・ Xu, Q., Tabata, T., and Zhu, Y. Multi-dimensional analysis of Japanese native speakers' L2 Chinese writing, *Journal of Second Language Writing*, 68 (2025) <https://doi.org/10.1016/j.jslw.2025.101204> 2025 年.

〈研究助成〉

・ 2023-2025 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「英米文学作品における歴史的文体研究としての英語表現史研究: 身体表現の機能の解明」研究分担者 (研究代表者: 安田女子大学・高口 圭輔)

[その他の活動]

〈学会活動〉President of the Japanese Association for Digital Humanities, 英語コーパス学会会長

ホドシチェク ボル (HODOŠČEK Bor) 准教授

<https://nlp.lang.osaka-u.ac.jp/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉デジタルヒューマニティーズ A・B、デジタルヒューマニティーズ特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Performance Workshop)

[研究活動]

〈研究テーマ〉自然言語処理、デジタルヒューマニティーズ、コーパス言語学、ウェブシステム、日本語学習支援システム

〈所属学会〉言語処理学会、Japanese Association for Digital Humanities (JADH) & Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO)、計量国語学会

[研究業績]

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Bor Hodoscek, Hilofumi Yamamoto. “Development of English translations for use in a visualization system of classical Japanese poetic vocabulary”. Proceedings of the 13th Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2024), 77-79, 2024 年 9 月 19 日, 国際会議 査読有り, ポスター発表.

・ Bor Hodošček, Hilofumi Yamamoto. “Visualization of humorous rhetoric contexts in classical Japanese poetry”. PLOTTING POETRY 7: Metres of Humour, 2024 年 6 月 27 日, 国際会議 査読有り, 口頭発表.

〈受賞〉

・ ホドシチェック ボル, 阿辺川 武, 仁科 喜久子, ベケシュ アンドレイ. 2023 年度計量国語学会論文賞, 学術論文形成を支える接続表現と前後文末モダリティとの共起構造—談話分析の視点から—, 計量国語学会.

〈研究助成〉

・ 基盤研究(C)『アカデミックライティングのための接続表現と文末表現の共起分析と学習支援への活用』(2023-2026) (研究課題番号 23K00629) 研究代表者

・ 基盤研究(C)『歌ことばの歴史的変遷の特徴を解析するツール群とデータセットの開発』(2023-2026) (代表: 山元啓史) (研究課題番号 23K00545) 研究分担者

〔その他の活動〕

〈管理運営〉部局情報システムセキュリティ責任者、部局 CSIRT、部局ネットワーク運用管理責任者、コンテンツ管理委員長、部局キャンパスメールサービス管理者、人文学林ネットワーク部門長

〈社会貢献活動〉大阪大学体育会アイスホッケー部顧問

三宅 真紀 (MIYAKE Maki) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉デジタルヒューマニティーズ A・B (データ解析)

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Content-Based English), 総合英語 (Project-Based English)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉計算言語学、コーパス言語学、新約聖書学

〈所属学会〉Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会)

〔その他の活動〕

〈管理運営〉データビリティフロンティア機構兼任、ネットワーク運用管理委員会委員

〈学会活動〉JADH 選挙管理委員

宮本 陽一 (MIYAMOTO Yoichi) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉心理言語学 A, 理論言語学研究 B (統語論), 言語情報科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Content-based English)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉Temporal Adverbial Clauses の統語構造, N'-ellipsis の統語メカニズム, Operators の L2・L3 獲得メカニズム

〈所属学会〉日本英語学会, 日本言語学会, 関西言語学会

〔研究業績〕

〈編著〉(単独の編者によるもの)

・ Miyamoto, Yoichi, Koichi Otaki, Chie Nakamura and Noriaki Yusa. On the Nature of Operators in the Grammar of L1 Chinese Learners of L2 Japanese. Elena Babatsouli (ed.), Multilingual Acquisition and Learning, 529-555, John Benjamins,

05/2024.

〈論文〉

- Maeda, Masako, Hiromune Oda and Yoichi Miyamoto. The Phonological Analysis of Left Branch Extraction in Japanese. SMOG & ANU International Conference on Syntax and Semantics, SMOG, 288-304, 08/2024.
- Maeda, Masako and Yoichi Miyamoto. Relativized Minimality and Form Copy in Japanese. Proceedings of The 14th Generative Linguistics in The Old World in Asia (GLOW in Asia XIV), Department of Linguistics and Modern Languages, The Chinese University of Hong Kong, 184-193, 09/2024.
- Maeda, Masako and Yoichi Miyamoto. Bare Wh-stripping in Japanese. Journal of East Asian Linguistics 33(3), 533-557, 12/2024.
- Oda, Hiromune, Yuta Tatsumi, Yoichi Miyamoto and Norvin Richards. Weak Heads at the Interface: A View from Temporal Adverbial Clauses. Acta Mongolia 22(606), 29-41, 01/2025.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- Maeda, Masako, Hiromune Oda and Yoichi Miyamoto. Left Branch Extraction in Japanese and Korean. 2024 SMOG International Conference on Syntax and Semantics (ICSS), (oral presentation), 08/20/2024, Andong National University.
- Yoichi Miyamoto. Covert Conjunction in Japanese Multiple Clefts. The 26th Seoul International Conference on Generative Grammar/The 18th Workshop on Altaic Formal Linguistics, (oral presentation/invited talk), 08/22/2024, Jeonbuk National University.
- Sugawara, Ayaka, Koji Sugisaki, Eri Tanaka, Satoshi Tomioka and Yoichi Miyamoto. Japanese-speaking Children's Association of "Only" in Ditransitive Sentences. The 16th Generative Approaches to Language Acquisition Conference, (poster presentation), 09/14/2024, NOVA University of Lisbon.
- Matsumoto, Ayumi, Kyoko Yamakoshi, Koji Sugisaki, Yoichi Miyamoto and Ayaka Sugawara. Children's Sensitivity to the Island Effect in Japanese Cleft Constructions. The 31st Japanese/Korean Linguistics Conference, (oral presentation), 11/01/2024, Monash University.
- Maeda, Masako, Hiromune Oda and Yoichi Miyamoto. The Phonological Analysis of Left Branch Extraction in Japanese. The 31st Japanese/Korean Linguistics Conference, (poster presentation), 11/01/2024, Monash University.
- Ikawa, Shiori, Masako Maeda, Yoichi Miyamoto, Yangyu Sun and Akitaka Yamada. Apparent N'-ellipsis in Chinese. JSPS Core-to-Core Program International Workshop 2024, (oral presentation), 12/07/2024, The University of Osaka.
- Nakamura, Chie, Suzanne Flynn, Yoichi Miyamoto and Noriaki Yusa. Processing of Wh-questions in L1 and L2: Cross Linguistic Evidence from Eye-tracking. JSPS Core-to-Core Program International Workshop 2024, (oral presentation), 12/07/2024, The University of Osaka.
- Sugimura, Mina, Yoichi Miyamoto and Chigusa Morita. Case Particle Omission in Nominative-Accusative Dependency in Japanese. The 38th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation, (oral presentation), 12/07/2024, The Tokyo University of Foreign Studies.
- Nakamura, Chie, Suzanne Flynn, Yoichi Miyamoto and Noriaki Yusa. Incremental or Delayed Processing?: L2 Learners' Active Gap-filling in Sentence Comprehension. 2025 Linguistic Society of America Annual Meeting, (oral presentation), 01/10/2025, Philadelphia Marriott Downtown.

〈研究助成〉

- 研究拠点形成事業 (A. 研究拠点形成型: 研究代表者) 「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」 日本学術振興会 (04/2021-03/2026).
- 科学研究費補助金 (基盤研究 S: 研究分担者) 「人間の記号処理能力の基盤を探る—言語の形式と意味をつなぐ認知神経システムの解明」 日本学術振興会 (04/2023-03/2028).
- 科学研究費補助金 (基盤研究 C: 研究代表者) 「「大併合」操作に基づく量化に関する比較統語論的研究」 日本学術振興会 (04/2023-03/2026).
- 科学研究費補助金 (基盤研究 C: 研究分担者) 「移動/線削除に伴う空所の認可条件に関する理論的・実証

的研究」日本学術振興会 (04/2023－03/2026).

〈国際共同研究実施状況〉

・ ERC Synergy Grant Horizon 2020 : Excellent Science (European Research Council : 研究協力者) 「Realizing Leibniz's Dream: Child Languages as a Mirror of the Mind」 (01/2021－12/2026).

・ 研究拠点形成事業 (A. 研究拠点形成型 : 研究代表者) 「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」 (04/2021－03/2026).

〈分野横断的研究実施状況〉

・ 研究拠点形成事業「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」, プロジェクト実施ならびに事業統括 (理論言語学者、心理学者参画) , アウトカム等 : <https://www.ctc.lang.osaka-u.ac.jp/> 参照.

・ 自然言語の構造構築における二項分岐について, プロジェクト実施 (理論言語学者、脳神経学者、生物学者参画) .

・ 科学研究費補助金 (基盤研究 S) 「人間の記号処理能力の基盤を探索-言語の形式と意味をつなぐ認知神経システムの解明」, 科研分担者 (代表者 : 酒井 弘教授 (早稲田大学)) (理論言語学者, 脳神経学者, 心理言語学者, 心理言語学者参画) .

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・ 研究拠点形成事業「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」第6回言語学国際セミナー, 12/7-8/2024, 大阪大学.

[その他の活動]

〈管理運営〉人文学研究科長, 評議員

〈学会活動〉日本言語学会評議員, 日本言語学会編集委員, 日本英語学会評議員, ISMBS 2021 International Scientific Committee, Journal of Monolingual and Bilingual Speech Editorial Board, その他, 国際学会発表要旨・学術雑誌論文査読

〈社会貢献活動〉日本学術会議 連携会員

八木 堅二 (YAGI Kenji) 准教授

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉中国語初級Ⅰ・Ⅱ 中国語中級 国際コミュニケーション演習 (中国語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国語方言 地理言語学 アジアアフリカ言語地図 中国語音韻史

〈所属学会〉日本中国語学会 日本音声学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 《汉藏语历史语言地图集》——“十”的汉语部分 (稿)、『地理言語学研究』モノグラフシリーズ 8 : 95-110
- ・ 《汉藏语历史语言地图集》——“六”的汉语部分 (稿)、『地理言語学研究』モノグラフシリーズ 8 : 54-68
- ・ 《汉藏语历史语言地图集》——“五”的汉语部分 (稿)、『地理言語学研究』モノグラフシリーズ 8 : 42-53

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 《汉藏语历史语言地图集》——“马”、「中国语言历史地理研究论坛 2024」、2025 年 3 月 22 日

〈研究助成〉

- ・ 科研費基盤研究(B)「移住と言語接触を視野に入れた漢語全時代形成史の歴史地理言語学的研究」研究分担者
- ・ 科研費基盤研究(C)「中国語方言における音韻・文法・語彙に関する言語類型地理論的研究」研究代表者

山本 武史 (YAMAMOTO Takeshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学 A・B（音韻論）、理論言語学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉学問への扉、欧米言語文化研究入門 B

〈学部教育担当科目〉英語 3 (A) (1 年生リスニング)、英語 13 (B) (2 年生総合)、英語学演習 IIIa・b (A) (豊中開講)、英語学演習 IVb (A)、英語学特別演習 IIa・b (B)、〈兼修〉英語学 Ia (G)、〈兼修 (高度)〉英語学 Ib (G)

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語における語の音韻構造（特に、音節構造と強勢）

〈所属学会〉関西言語学会、日本英語学会、日本英文学会（関西支部）、日本音韻論学会、日本音声学会、日本言語学会、International Phonetic Association

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Yamamoto, Takeshi (2024) “Foot reduction and refooting in English: Why does *admirable* have preantepenultimate stress?” 『音声言語の研究』 18 [言語文化共同研究プロジェクト 2023], pp. 41–53, 大阪大学大学院人文学研究科 (<https://doi.org/10.18910/97366>)

〈研究助成〉

- ・ 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 (C)）「英語における音韻的揺れについて」（22K00603、2022 年度～2024 年度）研究代表者

[その他の活動]

〈管理運営〉外国語学部英語専攻・専攻語代表、ダイバーシティ&インクルージョンセンター会議委員

〈学会活動〉関西言語学会編集委員（副委員長）、日本音声学会音声学普及委員、『京都大学言語学研究』学外編集委員

〈社会貢献活動〉日本音声学会主催「英語音声学入門講座」実践セッション講師

ヤン ムイ (YANG Mui) 講師

<https://muyiyangym.github.io/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学 A（意味論）、理論言語学 B（意味論）

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、総合英語 (Academic Skills)、総合英語 (Project-based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉形式意味論、語用論、統語・意味インターフェイス

〈所属学会〉日本言語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ ヤン ムイ (2024) A note on inferential evidentials in Qaraqalpaq 『自然言語への理論的アプローチ 言語文化共同研究プロジェクト 2023』 21-29 頁、大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻、2024 年 5 月出版

- ・ Kaufmann, Magdalena, Kaufmann, Stefan, Mizuno, Teruyuki, & Yang, Mui. (2024). Problem solving with Japanese ‘beki’. *Proceedings of Sinn Und Bedeutung* 28, pp. 475–489. Bochum: Ruhr-University Bochum, 2024 年 12 月出版

- ・ Nicolae, Andreea. C. and Sudo, Yasutada, & Yang, Mui (2025) “On the anti-exhaustive inference of ya”, *Proceedings of the 24th Amsterdam Colloquium*, pp. 284–290. Amsterdam: ILLC, 2024 年 12 月出版

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ Yang, Mui (2025) “Plurality (and possibly distributivity) of discourse reference to situations and worlds”. Invited talk at Comparative Syntax, Semantics, and Language Acquisition #3, Nanzan University, Nagoya, March 8, 2025.

- ・ Yang, Mui (2025) “Plurality (and possibly distributivity) of discourse reference to situations and worlds”. Invited talk at Semantics Research Group at OUC, Otaru University of Commerce, Sapporo, March 6, 2025.

- ・ Yang, Mui (2025) “口頭発表「子供の話題句に含まれる disjunction について」へのコメント”. Invited comment

at Encouraging Workshop on Formal Linguistics 12, Tokyo University of Agriculture, Tokyo, February 16, 2025.

- Nicolae, Andreea, Yasutada Sudo and Muiyi Yang (2024) “On the anti-exhaustive inference of ya”. Poster at Amsterdam Colloquium 2024, University of Amsterdam, December 18–20, 2024.
- Nicolae, Andreea, Yasutada Sudo and Muiyi Yang (2024) “On the anti-exhaustive inference of ya”. Talk at Colloquium talk at Leibniz-Zentrum Allgemeine Sprachwissenschaft (ZAS), Berlin, Germany, December 18–20, 2024.
- Yang, Muiyi (2024) “Conditionals meet anaphoricity: Why some interrogatives about conditionals can’t be asked”. Talk at Japanese/Korean Linguistic Conference 31. Monash University, Melbourne, Australia. October 30–November 2, 2024.
- Yamada, Akitaka, Eri Tanaka, Teruyuki Mizuno and Muiyi Yang (2024) Specificity triggered by naming restrictions in Japanese. Poster at Japanese/Korean Linguistic Conference 31. Monash University, Melbourne, Australia. October 30–November 2, 2024.
- Yang, Muiyi (2024) “Conditionals meet anaphoricity: Why some interrogatives about conditionals can’t be asked”. Invited talk at 2024 SMOG International Conference on Syntax and Semantics. Andong National University, Andong, Korea, August 19–21, 2024.
- Sudo, Yasutada and Yang, Muiyi (2024) “Modal cumulativity”, Talk at Semantics Workshop in Tokai and Kansai, Nagoya Gakuin University, May 18, 2024.

〈研究助成〉

- 研究代表者「等位接続詞の含意に関する意味論・語用論研究—実験的手法を用いて—」大阪大学 2024 年度 GKP への研究者派遣支援プログラム、派遣先：University College London

〈国際共同研究実施状況〉

- 日本語の数量表現「ブン」の意味論的分析、研究分担者、共同研究者所属：Leibniz-Zentrum Allgemeine Sprachwissenschaft (ZAS) (ドイツ)
- 日本語の名詞接続詞「や」の実験的、理論的研究、研究分担者、国際学会 Amsterdam Colloquium 2024 にてポスター発表、共同研究者所属：Leibniz-Zentrum Allgemeine Sprachwissenschaft (ZAS) (ドイツ)、University College London (イギリス)
- 複数性表現が許容する集団性解釈に関する意味論的分析、研究分担者、東海・関西意味論研究会にて研究発表、共同研究者所属：University College London (イギリス)
- モダリティ表現と過去形から生起される反事実性解釈に関する意味論的分析、研究分担者、Proceedings of Sinn Und Bedeutung にて論文出版、共同研究者所属：University of Connecticut

[その他の活動]

〈管理運営〉部局のハラスメント相談員、D3 センター（サイバーメディアセンター）兼任教員

〈社会貢献活動〉LC セミナー2024 運営委員会

〈市民向け講座・講演〉

- ヤン ムイ「モダリティ表現の反事実性に関する形式意味論的分析—日本語「べきだった」を中心に—」第9回大阪大学豊中地区研究交流会、ポスター発表、2024 年 11 月 22 日

【言語認知科学講座】

井元 秀剛 (IMOTO Hidetake) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知意味理論研究 A・B、言語認知科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉フランス語初級 I・II、フランス語初級選択 I・II、フランス語中級、「囲碁」で論理的思考を養おう

〈学部教育担当科目〉フランス語学講義 a

[研究活動]

〈研究テーマ〉メンタルスペース理論による日仏語時制研究

〈所属学会〉日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、日本英語学会、関西言語学会

[研究業績]

〈主たる実施者となって開催した学会〉関西言語学会第49回大会、2024年6月8,9日、関西学院大学

[その他の活動]

〈学会活動〉関西言語学会大会委員長

〈市民向け講座・講演〉言語文化公開講座LCセミナー、放送大学フランス語

大森 文子 (OMORI Ayako) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知レトリック論研究 A・B、言語認知科学特別研究 A・B、研究実践基礎、研究発表演習

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉認知言語学

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本英語学会、日本認知言語学会

[研究業績]

〈論文〉

・ 大森文子「メタファーと美意識—『百人一首』の花の歌とその英訳をめぐって」『こちら側とあちら側のレトリック—メタファー・翻訳・認知—(言語文化共同研究プロジェクト2023)』pp.1-14、村上スミス・アンドリュウ編、大阪大学大学院人文学研究科、2024年5月

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費助成金基盤研究(C)(2020-2024)「英語メタファーの認知詩学Ⅱ」(研究代表者)
- ・ 科学研究費助成金基盤研究(C)(2024-2027)「英語メタファーの認知詩学Ⅲ」(研究代表者)

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

- ・ 言語文化レトリック研究会第126回例会、2025年2月21日、人文学研究科言語文化学専攻A棟2階大会議室
- ・ 言語文化レトリック研究会第127回例会、2025年3月24日、人文学研究科言語文化学専攻A棟2階大会議室

[その他の活動]

〈管理運営〉(研究科)人文学林学術誌部門・『人文学林』編集チーム委員、人文学林学術誌部門・紀要編集チーム委員、(専攻内)紀要編集委員会委員長、設備・施設マネジメント委員会委員、ネットワーク運用管理委員会委員、部会主任会議委員(2025年1-3月)

〈学会活動〉日本認知言語学会編集委員

木本 幸憲 (KIMOTO Yukinori) 准教授

[教育活動]

〈学部教育担当科目〉英語1C(後期)、英語11C(後期)、英語13B(後期)、英語学演習1b(B)

[研究活動]

〈研究テーマ〉ルソン島北部のフィリピン諸言語の記述研究、言語類型論、認知言語学、社会言語学

〈所属学会〉日本言語学会、日本語用論学会、日本認知言語学会、社会言語科学会

[研究業績]

〈論文〉

・ Ewing, Michael, and Yukinori Kimoto “Vitality, maintenance, and documentation among the Malayo-Polynesian languages of Southeast Asia” In Alexander Adelaar and Antoinette Schapper (eds.) *The Oxford guide to the Malayo-Polynesian languages*

of Southeast Asia, Oxford University Press, pp.191–203.

・ Kimoto, Yukinori, Asako Shiohara, Danielle Barth, Nicholas Evans, Norikazu Kogura, I Wayan Arka, Desak Putu Eka Pratiwi, Yuki Kasuga, Carine Kawakami, Keita Kurabe, Heiko Narrog, Hiroki Nomoto, Hitomi Ono, Alan Rumsey, Andrea C. Schalley, Yanti, and Akiko Yokoyama, “Syntactic embedding or parataxis? Corpus-based typology of complementation in language use” In Barth, Danielle and Nicholas Evans (eds.) *Special issue of Language Documentation and Conservation No. 12 Social Cognition Parallax Interview Corpus (SCOPIC)*, University of Hawai‘i Press, pp.126–162

・ Barth, Danielle, Nicholas Evans, Sonja Gipper, Stefan Schnell, Henrik Bergqvist, Menguistu Amberber, I Wayan Arka, Christian Döhler, Diana Forker, Volker Gas, Dolgor Guntsetseg, Gabrielle Hodge, Eri Kashima, Yukinori Kimoto, Norikazu Kogura, Dominique Knuchel, Inge Kral, Keita Kurabe, John Mansfield, Heiko Narrog, Desak Putu Eka Pratiwi, Hiroki Nomoto, Seongha Rhee, Alan Rumsey, Lila San Roque, Andrea C. Schalley, Asako Shiohara, Elena Skribnik, Olena Tykhostup, Saskia van Putten, and Yanti “The Social Cognition Parallax Interview Corpus (SCOPIC) Project Guidelines” In Barth, Danielle and Nicholas Evans (eds.) *Special issue of Language Documentation and Conservation No. 12 Social Cognition Parallax Interview Corpus (SCOPIC)*, University of Hawai‘i Press, pp.163–237

・ 木本幸憲「補文節を好む言語・避ける言語：言語類型論から話し言葉を見てわかること」渋谷良方・吉川正人・横森大輔（編）『新しい認知言語学：言語の理想化からの脱却を目指して』ひつじ書房 pp.183–204

・ 木本幸憲「第3章 多言語地域における言語シフトと危機言語を考えるーフィリピンの事例からー」三宅和子・新井保裕（編）『境界と周縁 社会言語学の新しい地平』ひつじ書房 pp.79–101

吉川正人・名塩征史・木本幸憲・五所万実「フィールドで味わう理論の手ざわり：理論とフィールドの相互関係を再考する」『社会言語科学会第49回大会発表論文集』pp.375–384

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Kimoto, Yukinori, “Existential, possessive, and locational constructions in some Philippine languages” 16-ICAL: 16th International Conference on Austronesian Linguistics (De La Salle University, the Philippines), 2024年6月21日

・ 木本幸憲「ダイクシスと共有知識、共同注意：アルタ語（フィリピン）の指示詞の使い分けについて」日本語用論学会第27回大会（大阪大学豊中キャンパス）、2024年11月30日

〈研究助成〉

・ 日本学術振興会 科学研究費助成事業（若手研究）「オーストロネシア化したフィリピン狩猟採集民言語の言語人類学・認知言語学的研究」2020年4月～2025年3月、研究代表者

・ 日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 B）「インドネシア・フィリピンにおける少数言語の記録とコーパス構築に基づく研究」2019年10月～2025年3月、研究分担者（研究代表者：塩原朝子）

〔その他の活動〕

〈学会活動〉日本語用論学会評議員、広報委員会副委員長、日本語用論学会開催校委員

小薬 哲哉 (KOGUSURI Tetsuya) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉認知言語学研究 A・B, 言語認知科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語（Liberal Arts & Sciences）, 総合英語（Project-based English）

〈学部教育担当科目〉認知言語学研究 a（豊中開講）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉構文文法理論、認知言語学、語彙意味論、並列構造理論

〈所属学会〉日本英語学会、日本語文法学会、日本言語学会、日本認知言語学会、関西言語学会、英語語法文法学会、筑波英語学会、大阪大学言語文化学会

〔研究業績〕

〈論文〉

・ 小葉哲哉 (2024) 「「状態」を表す N フシテイル構文の意味について：現代日本語書き言葉均衡コーパスを用いた調査から」『言語文化共同研究プロジェクト 2023 認知・機能言語学研究 IX』, 48-65.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ 小葉哲哉 (2024) 「「状態」を表す N フシテイル構文におけるフ格名詞の意味について—コーパス調査と名詞述語文との比較を通じて—」, 関西言語学会第 49 回大会ワークショップ, 2024 年 6 月 8 日, 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス.

・ Kogusuri, Tetsuya (2024) “Taking a Look at V (NP) *a Look* Constructions: A Frame-Constructional Analysis”, 13th International Conference on Construction Grammar, 27th August, University of Gothenburg, Sweden.

〈研究助成〉

・ 科学研究費補助金基盤研究 (C) 2022 年度-2024 年度「日本語における派生形態論と構文論の接点—動詞由来名詞+スル構文の構文文法的研究」課題番号 22K00508、研究代表者：小葉哲哉

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・ 大阪認知言語学研究会 9 月 15 日ハイブリッド (大阪大学大学院人文学研究科言語文化 B 棟大会議室 B・Zoom)

・ 大阪認知言語学研究会 12 月 22 日オンライン (Zoom)

[その他の活動]

〈管理運営〉研究企画推進委員会副委員長、国際交流委員会委員、広報・社会貢献検討委員会委員 (2024 年度後期)、学内科研費相談員

〈学会活動〉関西言語学会編集委員

高橋 克欣 (TAKAHASHI Katsuyoshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語認知科学論 A・B (Language and Cognitive Science A・B)

〈共通教育担当科目〉フランス語中級 (Intermediate French)

〈学部教育担当科目〉フランス語 3 (French3)、フランス語 1 5 (French15)、フランス語学講義 a・b (French Linguistics a・b)、フランス文化演習 IVa・IV b (French Culture IVa・IV b)

[研究活動]

〈研究テーマ〉フランス語学、言語学

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会、日本フランス語教育学会

[研究業績]

〈論文〉

・ 「フランス語の直説法半過去形と談話的時制解釈：高橋 (2016) の仮説に対する検討」『時空と認知の言語学 XIII』言語文化共同研究プロジェクト, 1-10.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ 「翻訳 AI・生成 AI を用いた中級フランス語授業—どのように行い、評価するか」第 39 回関西フランス語教育研究会

[その他の活動]

〈管理運営〉人権問題委員会、キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員長、大学院教務委員

〈学会活動〉日本フランス語フランス文学会学会誌編集委員、日本フランス語学会編集委員

田村 幸誠 (TAMURA Yukishige) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知意味論研究 A・B、言語認知科学特別研究 A・B

《学部教育担当科目》英語1A（通年），英語1B（通年），英語学概論AB, 英語学講義AB, 英語学特別演習A

〈研究テーマ〉 認知類型論から見た中央アラスカユピック語の研究、および社会音声学

〔研究業績〕

- ・ 田村幸誠・松浦幸祐 (2024) 「認知音韻論の発展に向けて：日本語の VOT とアクセント移動を事例に」『時空と認知の言語学 XI (大阪大学言語文化学専攻共同プロジェクト) 11』 21-32, 2024 年 6 月.
- ・ Tamura, Yuki-Shige and Kosuke Matsuura (2024) "Two barriers for Osaka Japanese learners: A usage-based phonology perspective," *Proceedings of the Fifty-ninth Annual Meeting of the Chicago Linguistic Society* 59 487-502, 2024 年 12 月.
- ・ Tamura, Yuki-Shige (2025) "Toward a Fuller Symbolic View of Grammar: The Theoretical Orientation of Cognitive Phonology and Its Application to Japanese Prosody," *JELS* 42, 311-315, 2025 年 3 月.

- ・ 田村幸誠他訳 (2024)『変わりゆくアメリカ英語― 方言と変異をめぐる 12 章― (上巻)』(担当:共訳, 範囲: 第3章 第4章) 開拓社2024年7月.
- ・ 田村幸誠他訳 (2024)『変わりゆくアメリカ英語― 方言と変異をめぐる 12 章― (下巻)』(担当:共訳, 範囲: 第8章) 開拓社2024年7月.

・ 田村幸誠 (2025) 「(エッセイ) 炭酸飲料はsoda? pop? それとも・・・」『英語教育 4月号』, 51, 2025年3月.
(研究発表・講演・学会報告)

- Tamura, Yuki-Shige (2024) "Toward a Fuller Symbolic View of Grammar: The Theoretical Orientation of Cognitive Phonology and Its Application to Japanese Prosody," The English Linguistic Society of Japan 17th International Spring Forum (Invited Lecturer), 2024 年 5 月 25 日.

- ・ 田村幸誠 (2024) 「アメリカ英語の r はどこから来たのか：アメリカ英語概説と 母音推移現象に関する一考察」

日本英文学会 関西支部第 19 回大会（英語学部門シンポジウム『アメリカ英語方言から考える英語研究とその含意』統括責任者・講師）, 2024 年 12 月 14 日.

・ 田村幸誠 (2025) 「Semanticization/grammaticalization からみた Phonologization: 意味現象と音韻現象の共通基盤を求めて」東京大学言語学研究室での講演会 (共催 JSPS 科研費 JP24K00060 代表西村義樹), 2025 年 3 月 21 日.

・ 田村幸誠 (2025) 「アメリカ英語方言からみた英語の「定説」とその崩れ」レトリック研究会, 2025 年 3 月 24 日.

- ・ 第10回大阪言語学談話会 2025年3月4日 大阪大学言語文化研究棟2階大会議室
- ・ 第11回大阪言語学談話会 2025年3月16日 大阪大学言語文化研究棟2階大会議室

《管理運営》言語認知科学講座主任

〈学会活動〉 日本言語学会編集員

中寫 浩貴 (NAKAJIMA Hirotaka) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知レトリック論研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉フレーム意味論およびコンストラクション形態論に基づく英語語形成の研究

〈所属学会〉日本認知言語学会、日本英語学会、関西言語学会、日本言語学会、日本語用論学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈翻訳・翻訳書〉

・ 中畠浩貴 「第5章 英語の地域的変種」 (原題 ‘Regional Varieties of English’), 「第6章 アメリカ英語の社会的変種」 (原題 ‘Social Varieties of English’), 田村幸誠・住吉誠・南佑亮・中畠浩貴・松浦幸祐 (訳) 『変わりゆくアメリカ英語—方言と変異をめぐる12章— (上)』 (原題 *American English: Dialects and Variation*, 3rd ed. by Walt Wolfman and Natalie Schilling, Wiley-Blackwell, 2016), 開拓社, pp. 185-259, ISBN: 9784758924047. 2024年

・ 中畠浩貴 「第10章 方言とスタイル」 (原題 ‘Dialects and Style’), 「第11章 方言研究」の応用 (原題 ‘The Application of Dialect Study’), 田村幸誠・住吉誠・南佑亮・中畠浩貴・松浦幸祐 (訳) 『変わりゆくアメリカ英語—方言と変異をめぐる12章— (下)』 (原題 *American English: Dialects and Variation*, 3rd ed. by Walt Wolfman and Natalie Schilling, Wiley-Blackwell, 2016), 開拓社, pp. 149-234, ISBN: 9784758924054. 2024年

〈研究助成〉

・ 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2022年4月-2025年3月 (課題番号: 22K13137、研究課題名: 英語名詞由来 *cr* 名詞の実証的・理論的研究: 構文とフレームの統合的アプローチ、研究代表者: 中畠浩貴 (大阪大学)) ※研究代表者

・ 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 2023年4月-2027年3月 (課題番号: 23H00629、研究課題名: 百科事典的意味論に基づくレキシコンの研究: 大規模コーパスを用いた実証的研究、研究代表者: 松本曜 (国立国語研究所)) ※研究分担者

〈主たる実施者となって開催した研究会〉研究会の名称、開催日、開催場所を記載する。

- ・ 第10回 大阪言語学談話会、2025年3月3日、大阪大学豊中キャンパス言語文化A棟2F大会議室
- ・ 第11回 大阪言語学談話会、2025年3月16日、大阪大学豊中キャンパス言語文化A棟2F大会議室

[その他の活動]

〈管理運営〉広報・社会貢献検討委員会委員 (前期)、学生支援委員会委員、言語文化学会副委員長

〈学会活動〉日本認知言語学会大会実行委員、関西言語学会運営委員、日本語用論学会開催校委員、大阪大学言語文化学会副委員長

〈社会貢献活動〉放送大学非常勤講師 (担当科目: 英語初級I)